日本語アプレイザル評価表現辞書（JAppraisal 辞書）
～態度評価編～

Version1.2 仕様説明書，及び，評価表現分類表

大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所　コーパス開発センター

2012 年 3 月

日本語アプレイザル評価表現辞書（JAppraisal 辞書）は，評価表現に対して評価極性情報（肯定・否定）だけでなく，評価基準情報（愛情に関する基準・倫理に関する基準など）を付与した電子化辞書です．

本辞書の構築は，文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「代表性を有する大規模日本語書き言葉コーパスの構築：21 世紀の日本語研究の基盤整備」（平成 18〜22 年度，領域代表者：前川喜久雄），文部科学省科学研究費補助金若手研究（B）「日本語「書き言葉らしさ・話し言葉らしさ」測定法の設計」（平成 21〜23 年度，代表者：佐野大樹）からの助成を得て，平成 22 年度に大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所コーパス開発センターでの業務，及び，国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト「コーパスアノテーションの基礎研究」（プロジェクトリーダー：前川喜久雄）の一環として行ったものです．

本辞書の公開にあたり,『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』のメタデータ部分の権利者である三菱電機株式会社様には，言語資源協会様を通じて，当該の言語資源に付与されている「senseid」の本辞書における使用を認めて頂きました．また，言語資源協会の石川真奈見様には，データの公開手続き等についてご支援頂きました．言語資源の必要性が着目され，より有効な利用方法を探求していくなかで，このようにご理解頂けたことを感謝しております．

本辞書に用いられた評価表現の分類体系の記述においては，東京工業大学の奥村学氏，筑波大学の関洋平氏，国立国語研究所の柏野和佳子氏・丸山岳彦氏に有益なコメントを頂きました．また，JAppraisal 辞書のデータ整理において，聖心女子大学大学院の服部紀子氏にご協力頂きました．ここに記して，感謝の意を示します．

なお，本辞書は国立国語研究所としての言語に対する考え方・立場・視点を反映するものではありません．

平成 23 年 9 月

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所コーパス開発センター*
プロジェクト特別研究員　（平成 22 年度まで）

佐野大樹（さの　もとき）

*現職: 独立行政法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所 専攻研究員

目 次

第 I 部　JAppraisal 辞書の概要 **5**

第 1 章　はじめに **7**
1.1 JAppraisal 辞書とは 7
1.2 JAppraisal 辞書の特徴 7
1.3 JAppraisal 辞書の利用 8
1.4 本稿の構成について 8

第 2 章　評価と評価表現 **9**
2.1 評価と評価表現の定義 9
2.2 なぜ JAppraisal 辞書が必要か 9
2.3 JAppraisal 辞書を用いた分析法 11
2.4 評判・評価分析における利用において 11
2.5 アプレイザル理論における英語の態度評価表現の分類とその概要 11
2.6 まとめ 13

第 3 章　辞書の構造 **15**
3.1 本章の概要 15
3.2 アプレイザル分類データ (jappraisal.txt) 15
3.3 分類体系記述データ (category.txt) 17
3.4 多義カテゴリデータ (ambiguity.txt) 17
3.5 NDC 別頻度データ (bccwj_ndc.txt) 17
3.6 語彙密度データ (bccwj_lexd.txt) 18
3.7 統合データ 1 (jappraisal.xlsx) 19
3.8 統合データ 2 (jappraisal.1.2.sqlite) 19
3.9 まとめ 19

第 4 章　態度評価表現の分類 **21**
4.1 本章の概要 21
4.2 分類体系の記述方法 21
4.2.1 system network 21
4.2.2 realisation statement 23
4.3 分類体系概説 23
4.3.1 point of origin 〜〈態度評価表現〉〜 25
4.3.2 システム [評価極性] 25
4.3.3 システム [内外] 26
4.3.4 システム [内包] 28
4.3.5 システム [受動性] 29
4.3.6 システム [能動性] 31

4.3.7 システム [境界性] 32
4.3.8 システム [群体性] 34
4.3.9 システム [他動性] 36
4.3.10 システム [自立性] 40
4.4 まとめ 45

第 5 章 補足事項 47
5.1 JAppraisal 辞書の拡張について 47
5.1.1 評価表現と表現の直接性・間接性について 47
5.1.2 評価表現と表現の言語単位について 47
5.2 他の言語資源との併用 47
5.2.1 『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』との併用について 47
5.2.2 『新聞記事 GDA コーパス 2004』との併用について 47
5.3 その他 48
5.3.1 出典情報の明記について 48
5.3.2 日本語 WordNet のライセンスについて 48
5.3.3 連絡先 48

第I部

JAppraisal辞書の概要

第1章　はじめに

1.1　JAppraisal 辞書とは

『日本語アプレイザル評価表現辞書〜態度評価編〜』（以下，JAppraisal 辞書）は「愛する」「非道」などの評価表現を，肯定的か否定的か（評価極性）だけでなく，評価基準（愛情に関する基準・倫理に関する基準など）の種類によって分類・集約するための電子化辞書です．例えば，がんの告知など意見が肯定的なものと否定的なものに二極化することが想定される主題 (subject-matter) や，震災や緊急事態の評価のように評価極性が偏るような事象の評価分析をする際に，評価情報を分類・細分化して，類似した評価情報を集約したり，必要な評価情報をフィルタリングして抽出する手段として利用できます．また,「インターネット」の評価の観点が 20 世紀と 21 世紀ではどのように変化してきたかなど，評価の観点の変化を通時的に捉える手段としても活用することができます．さらに，Critical Discourse Analysis などのディスコース分析のためのレファレンスブックとしてもご活用頂けます．

1.2　JAppraisal 辞書の特徴

JAppraisal 辞書の特徴は以下の通りです．

- アプレイザル理論と呼ばれる言語理論を基底とし，評価表現の示す評価基準を体系的に分類
- 言語資源協会より公開されている『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』（http://www.gsk.or.jp/catalog.html）から，評価表現に該当する語，8,544 件（語義の数）を収録
- 一般的な国語辞典から評価表現を特定し，特定のジャンルに偏らない多彩な評価表現を収録
- 表現の多義性を考慮し，見出し語ごとでなく語義ごとの分類を採用
- 評価表現の特定，及び，分類の全てを人手で実施
- 総計 227 のカテゴリに評価表現を分類
- 『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』の「senseid」と対応付けることができ，この「senseid」が付与されたコーパス（言語資源協会より公開されている『新聞記事 GDA コーパス 2004』など）と併用できるように設計
- 「美人」「美しい人」など評価表現は品詞を問わず同じ基準を示す場合があるため，形容詞だけでなく，全ての品詞を統一した体系によって分類

1.3 JAppraisal 辞書の利用

利用許諾条件にしたがい，研究・教育目的に限り利用できます．利用許諾条件は，以下の通りです．

- 言語資源協会「言語資源利用誓約書」に基づき利用しなければならない．
- 本辞書の著作権は，佐野大樹 (©MOTOKI SANO 2011) が保持する．但し，辞書に付与された senseid に関しては，『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』の製作者（http://www.gsk.or.jp/catalog.html 参照）が保持する．
- 本辞書の全部又は一部を再配布してはならない．
- 本辞書パッケージの利用は，研究・教育目的に限って認める．
- 本辞書パッケージを改変することは，研究・教育目的に限って認める．
- 本辞書及び本辞書を改変したものを利用して行った研究等の成果を公表する場合は，本辞書を利用したことを明記しなければならない．
- 本辞書を利用することによって直接的・間接的に生じたいかなる損害についても，著作権者は賠償する責任を負わない．
- 本利用許諾条件に定めのない事項については，著作権者と協議しなければならない．

1.4 本稿の構成について

本稿は，JAppraisal 辞書の構築目的・背景，構築方法，辞書の構造，評価表現のカテゴリ (本稿では，第 4 章以降では評価表現のカテゴリのことを「feature」という) について説明する第 I 部と，評価表現をカテゴリごとに記載した第 II 部によって構成されている．第 I 部では，第 2 章にて,「評価」「評価表現」という用語を定義した上で，JAppraisal 辞書の構築目的・背景，及び，JAppraisal 辞書を用いた分析法などについて述べる．また，評価表現の分類の基底となっているアプレイザル理論について概説する．第 3 章では，辞書のデータ構造について示す．第 4 章では，JAppraisal 辞書における評価表現の分類方法とカテゴリについて説明する．第 5 章では，補足事項について述べる．第 II 部は，辞書に掲載された評価表現の分類表となっており，レファレンスブックとして利用できる．

第2章　評価と評価表現

2.1　評価と評価表現の定義

本稿において評価表現を扱っていく前提として,「評価」(evaluation) 及び「評価表現」(evaluative expression) を以下の通り定義する.

> 評価は個人もしくはコミュニティの価値観や規範の構築・保持・拡散・縮小・変更・破壊を施行するための社会システムであり，評価表現は評価を実現するための言語資源[1]である.

「評価」という言葉が上述したような定義として捉えられることは必ずしも一般的でなく，教室や企業で行われる学力の評価や業績の評価として解釈されることが多い.

しかし，宇佐美 [42] で述べられている通り，評価は教室や会社で行われる特別な行為でなく，日常的に行われ，個人，もしくは，社会の方向性を左右する社会システムである．文化人類学の立場から，山口 [45] は以下のように述べており，評価（ここでは「友好的なもの」「敵対的なもの」）が自分と他を区別し，混沌を対象化するためのシステムの 1 つとして機能してきたと考えられている.

> 我々は通常，我々を取り巻く世界を，友好的なものと敵対的なものに分割する思考に慣れている．その上で，敵対的な世界に，我々にとって好ましからざる傾向と考える性質を次々に付託する傾向がある．こうした思考は，我々にとって全く身近な世界に対する我々の態度だけに現れるのではなく，人間の意識の展開の歴史的過程の最も早い時期の記憶に残されている．人は多分その意識の現れる状態を，混沌を介して自覚してきたと思われる．混沌から身を引き離した瞬間に，彼は混沌を対象化する．混沌の対象化は，秩序の確認への第一歩であったことは疑えない．(p.1)

このように評価が社会の形成とそのいとなみの根底にあるものとして重要な役割を果たしてきた結果，評価を実現する言語資源である評価表現も，社会の多様化と共に，話し手・書き手の要求に合わせて複雑化してきた.

JAppraisal 辞書は，この複雑化した評価表現を選択体系機能言語理論（systemic functional theory 以下，システミック理論）とアプレイザル理論 (appraisal theory) の立場から，体系立てて整理し，話し手・書き手が評価を表そうとしたときに，日本語の評価表現がどのような選択肢を提示してくれるか明らかにするものである.

2.2　なぜ JAppraisal 辞書が必要か

JAppraisal 辞書構築の背景には，評価に関する分析が抱えている以下のような課題がある.

---

[1] ここで言う「言語資源」は，辞書やコーパスなどを指すのではなく，語彙・文法・意味など，言語そのものを資源として捉えて「言語資源」(language as resource) と呼んでいる．選択体系機能言語理論における基本的な言語観の 1 つである．詳細については，佐野 [32] を参照されたい.

1. 評価は，そもそも主観的な行為であり，これを一貫性をもって客観的に分析することが難しい．
2. 情報処理分野などで行われている評判分析によって，ある対象が Web 上で肯定的・否定的のどちらに評価される傾向があるか，ある程度解析できるようになった．しかし，社会的に重要な問題は，そもそも肯定的な意見をもつコミュニティと否定的な意見をもつコミュニティに二極化されることが多く，極性について分類するだけでは，社会における傾向を把握する上でも，解析結果に基づき個人の態度を決める上でも有益な判断材料を提供するに至らない場合がある．
3. 評価極性が偏る対象，例えば，緊急時に発信される twitter を分析し，否定的な評価が多いことが分かったとしても，有益な情報とはならない場合がある．

以上のような課題の解決に貢献する目的で，JAppraisal 辞書を構築した．まず，課題 1 に関しては，JAppraisal 辞書を用いる事で，辞書に掲載された表現に関して，一貫した評価表現の特定と，その分類が可能となる．なお，見出し語ごとでなく語義ごとに分類したことで，同じ表現でも異なる意味を表す場合には異なるカテゴリに分類できるように設計してある[2]．

課題 2・3 に関しては，JAppraisal 辞書を用いることで，図 2.1 に示すように，極性の分類を細分化し，分析目的に合わせて，必要な評価情報を集約したり，評価の観点別に頻度・分布状況を把握することができる．例えば，あるベストセラー小説の評価が，Web 上では肯定的なものに偏っているとしよう．そのような状況で，評価極性を分類し，肯定的な評価が多いことがわかっても有益な分析とならない．JAppraisal 辞書を用いて，評価表現が示す評価基準を分析すれば，なぜその小説がベストセラーとなったのか，どのような観点からその作品は優れていると受けとめられているのか，使用される評価基準の使用傾向から明らかにすることができる．また，例えば当該の小説がどのような意味で特異なのか知りたい場合は,「奇抜」や「異彩」などのような表現を含むカテゴリに特化して評価情報を抽出することで，肯定的な評価情報全体から目的とする情報のみを取り出すことも可能となる．

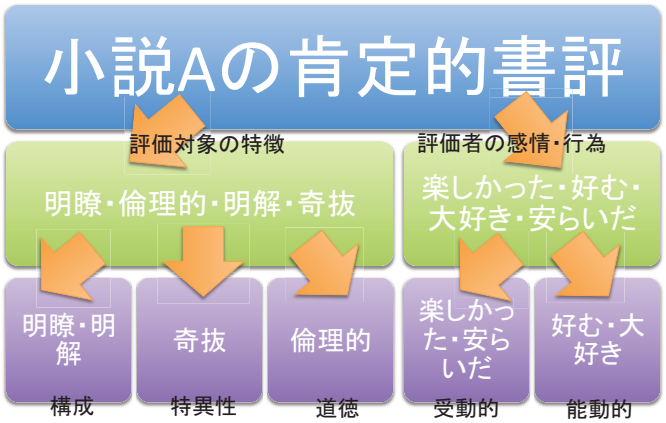


図 2.1: 肯定評価情報の細分化

[2]語義の自動付与に関しては，奥村ほか [24] などを参照．

2.3 JAppraisal 辞書を用いた分析法

JAppraisal 辞書は，ある行為や品物などの評判分析にも活用できるが，それ以外にも，ディスコース分析，自然言語処理，教育学などを問わず，テクスト分析を必要とする研究・教育であれば，大別して以下の 4 つの分析法を行うための一資源として活用することができる．

空間的変位の分析 ある時間や時代において，同じ対象が異なるコミュニティやレジスタにおいてどのように評価されているか分析を行う．もしくは，ある時間や時代における評価のされ方が分野などの文脈要素によってどのように違うか分析を行う．例えば，感情的な評価表現（第 4 章「内評価」を参照）の使用は，小説など文学作品に顕著な特徴であり，読者を楽しませる上で重要な言語資源となっていると考えられるが，論文などでは，異なる評価表現（第 4 章「外評価」を参照）の使用が主張を客観的に提示する上で重要な言語資源となってくる．分野によって，有効な評価基準は異なる場合がある．

時間的変位の分析 異なる時間や時代において，同じ対象がどのように評価されているか分析を行う．先述した 20 世紀と 21 世紀における「インターネット」の評価基準の違いの分析などが該当する．また，幼児の評価表現の使用傾向に関する言語体系の発達や，学生が書いた小論文やエッセイの通時的な変化の分析などにも利用できる．

クロノトポスの変位における分析 空間的変位の分析と時間的変位の分析を両方行う場合．評価傾向は空間的・時間的に変化することが多々あるため，これら両方の位置づけを考慮しながらの分析が望ましい．特定の対象の評価を分析する上では，最も有効な方法と考えられる．

法則性の探索的分析 ある対象の評価を分析するのではなく，評価という行為そのものの分析．評価がどのように発生し，変化，拡大，縮小，保持，崩壊，定着等していくか，類型化・法則化をしていく分析．例えば，患者の語りや闘病記などを分析し，病気の状態の変化とともに，評価される対象や評価基準がどのように変化するかなどを探索的に検討していくようなもの．

以上のような分析のための言語資源となることを意図して JAppraisal 辞書を構築した[3]．

2.4 評判・評価分析における利用において

一部のディスコース分析など人手で分析を行う際のレファレンスブックとして JAppraisal 辞書を用いる際は問題ないが，JAppraisal 辞書を評判・評価の自動分析に活用する場合，別途，単語極性反転を可能とする手法が必要になる．さらに，JAppraisal 辞書の約 2 割は多義語であり，JAppraisal 辞書に掲載された全ての語を用いて分析を行う場合，表現の多義性について考慮する必要がある．語義の曖昧性解消については，奥村ほか [24] などを参照されたい．JAppraisal 辞書には評価表現の多義性に関する情報が付与されているので（参照第 3 章），その情報を活用して研究手法にあった形式に辞書を編纂してご利用頂きたい．

2.5 アプレイザル理論における英語の態度評価表現の分類とその概要

JAppraisal 辞書では，アプレイザル理論を基底として評価表現が分類されている．アプレイザル理論では，評価表現は評価極性を示す評価表現以外にも大別して 2 つのタイプがあると考えられている [17]（参照 第 4 章）ため，本稿では評価極性を示すことで評価を表すものを，以下，態度評価

[3] このような用途以外には，JAppraisal 辞書は利用できないということでなく，利用者の目的に合わせて，必要があれば改変し，ご利用頂きたい．

表現 (attitude) と呼び区別することとする．この理論を基底としたのは，アプレイザル理論が品詞を問わず英語における網羅的な評価基準の分類をカテゴリ間の上位下位関係を踏まえた上で提示し，さらに，多様な分野で活用されているためである．

英語における評価表現の研究では，アプレイザル理論以外にも Chafe and Nichols [5]，Ochs and Schiefflen[23]，Biber and Finnegan [2] など多くの枠組みが提案されている．アプレイザル理論がこれらの研究と異なるのは，system network（システムネットワーク）と呼ばれる分類記述法に則り態度評価表現が示す評価基準について明らかにしている点である[4]．この記述法によって，英語の態度評価表現が示す評価基準のカテゴリを図 2.2 のように提示した．

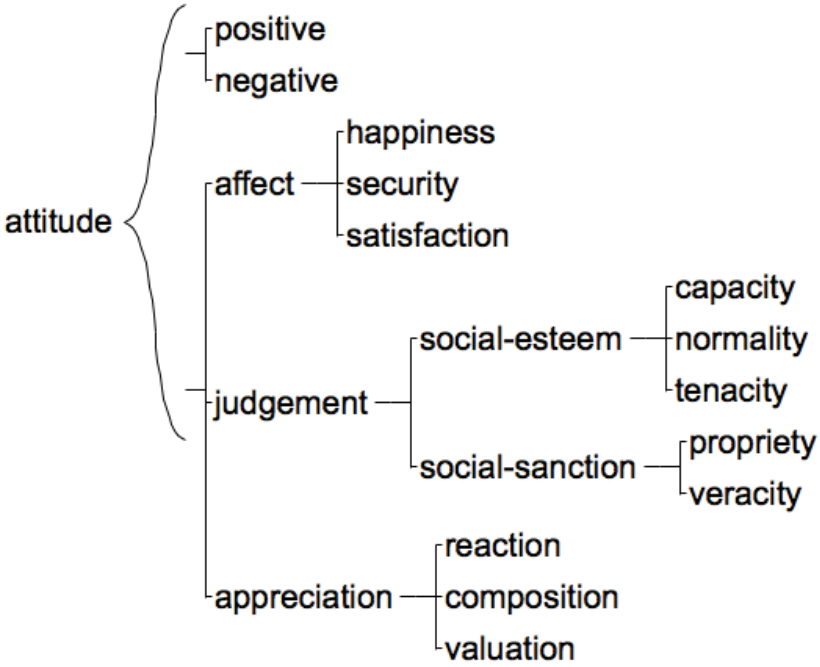


図 2.2: 英語における attitude の分類

図 2.2 の system network は，評価極性に関する分類に加えて，態度評価表現が示す評価基準には，感情を基準とした評価 (affect)，道徳的基準など人の行為に対する評価 (judgement)，美学的基準など事象に対する評価 (appreciation) があることを示す．さらに，affect は ‘ rejoice ’‘ sad ’ など幸福感に関する評価 (happiness)，‘ faint ’‘ anxious ’ などの精神的安定性に関する評価 (security) ，‘ satisfied ’‘ pleased ’ など満足度に関する評価 (satisfaction) の 3 カテゴリに分類される．

judgement は，個人の世評に関する評価 (social esteem) と社会的規範に関する評価 (social sanction) に分類され，social esteem は ‘ powerful ’‘ foolish ’ など能力の評価 (capacity)，‘ normal ’‘ peculiar ’ など普通さや奇抜さの評価 (normality)，‘ brave ’‘ impatient ’ など信頼性の評価 (tenacity) に，social sanction は，‘ ethical ’‘ moral ’ など道徳的評価 (propriety) ，‘ truthful ’‘ manipulative ’ など実直さや誠実さの評価 (veracity) に分類される．appreciation は，‘ arresting ’‘ boring ’ など評価対象に対する反応を表す評価 (reaction) ，‘ proportional ’‘ unbalanced ’ など事象の構成に関する評価 (composition) ，‘ innovative ’‘ insignificant ’ など事象の価値に関する評価 (valuation) に分類される．

英語においてはこのように態度評価表現は分類されるが，日本語にこの枠組みを適用する場合，「勇猛」など 2 つのカテゴリにまたがる表現や，judgement と appreciation の区別がつかない表現が存

[4]system network の詳細については，4.2 参照

在する．ここではこれ以上の詳細は示さないが，英語の枠組みを用いては分類できない評価表現が認められたため，英語の分類法を参考にして，改めて日本語における態度評価表現の分類を記述した．詳細については，第 4 章を参照されたい．JAppraisal 辞書では，改めて記述した system netowrk に則り日本語の態度評価表現を分類している．

2.6 まとめ

本章では，JAppraisal 辞書の構築における目的・背景，概要などについて示した．また，アプレイザル理論の概要，特に，英語における態度評価表現の分類体系について説明した．アプレイザル理論に関しては，The Appraisal Website (http://www.grammatics.com/appraisal/) にて詳細に説明されており，多数の参考文献にもアクセスできる．そちらも併せてご覧頂きたい．次章では，データの種類と構造について述べる．

第3章　辞書の構造

3.1　本章の概要

本章では，辞書の構造について説明する．JAppraisal 辞書には，アプレイザル分類データ（jappraisal.txt），分類体系記述データ (category.txt)，多義カテゴリデータ (ambiguity.txt)，これらのデータを統合した excel ファイル (jappraisal.xlsx)，計 4 ファイルが収録されている．txt ファイルの文字コードは全て UTF-16 である．なお，version1.2 より,『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の出版サブコーパス (PSC) と図書館サブコーパス (LSC) におけるジャンル（日本十進分類法の一次区分）別の頻度情報 (bccwj_ndc.txt)，及び,『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の出版サブコーパス (PSC) と図書館サブコーパス (LSC) の可変長サンプルにおける語彙密度（情報の詰め込みの程度）の平均値の情報（bccwj_lexd.txt）を追加している．また，sqlite3 フォーマットのデータ (jappraisal1.2.sqlite) も追加した（version1.2 では計 7 ファイル）．

version1.0 から version1.2 までの変更点を，以下にまとめる．日本語 WordNet，及び，そのライセンスの詳細については http://nlpwww.nict.go.jp/wn-ja/及び Bond[3] を，語彙密度の計測方法については，佐野ほか [35, 30] を参照されたい．

jappraisal.txt に senseid2 を追加 senseid の別フォーマットの追加．version 1.1 より．

jappraisal.txt に jwd_wordid を追加 日本語 WordNet ver1.1 の worid の追加．version1.1 より．

bccwj_ndc.txt の追加 『現代日本語書き言葉均衡データ』の書籍データにおける日本十進分類法 (NDC) の一次区分別の頻度情報．version 1.2 より．

bccwj_lexd.txt の追加 『現代日本語書き言葉均衡データ』の書籍データにおいて，当該の語が使用されているサンプルの平均語彙密度の情報．version 1.2 より．

3.2　アプレイザル分類データ (jappraisal.txt)

アプレイザル分類データは，JAppraisal 辞書の本体であり，語義ごとに分類情報が掲載されている．データに含まれる情報は以下の通りである．

appraisalID （例 ATD01736）収録された評価表現の ID[1].

senseid （例 27809.0）『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』に掲載されている語義に付与された ID．例えば 27809.0 は「精美」の語義「(名) 巧みに作られていて，または純粋で，美しいこと.」と対応する[2]．三菱電気株式会社によって岩波国語辞典第五版に付与されたもの．この ID によって，言語資源協会から公開されている『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』,『新聞記事 GDA コーパス 2004』と併せて利用できるように設計してある．また，奥村ほか [24] によって構築された

[1]欠番を含むので，注意．
[2]以下，断りがない限り，語義は岩波国語辞典第五版が出典．

「代表性のある語義タグ付きコーパス」（誓約書を提出することで入手可能）にも，同様の語義情報が付与されている．

senseid2 言語資源『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』の旧配布版で採用されている表示形式（フォーマット）の ID

jwd_wordid 当該の語の日本語 WordNet (http://nlpwww.nict.go.jp/wn-ja/) の wordid

headword （例 せいび）見出し語

katakana （例 セイビ）見出し語のカタカナ表記

notation （例 精美）見出し語の表記．複数ある場合は「/」

polarity （例 p）当該の語義の評価極性を示す．種類は以下の通り．

- **p** 肯定
- **pPhrase** 見出し語＋それに後続する語と一緒に，フレーズとして肯定的評価を示すもの．(例 見出し語「あたたかい」に対して，語義「＜イ＞『懐（ふところ）が—』金まわりがよい．経済状態がよい.」)．headword には見出し語のみを記載しているが，notation にはフレーズとして掲載してある．
- **n** 否定
- **nPhrase** 見出し語＋それに後続する語と一緒に，フレーズとして否定的評価を示すもの．(例 見出し語「とっぴょうし」に対して，語義「『—もない』度はずれな．調子はずれな．とてつもない.」)．headword には見出し語のみを記載しているが，notation にはフレーズとして掲載してある．

spID，及び，selection path(sp) （例 1-2-1-1-2-8-0 ／態度評価表現; 否定:内評価:受動:心状:動揺・ショック・乱心）spID は selection path の ID．selection path とは，当該の語義が他の評価表現とどのような類似性，もしくは，相違点をもつか示すもので，第 4 章で説明する分類体系における categorisation を示す．例えば 1-2-1-1-2-8-0 には,「狼狽える」「慌てる」「動転」「狼狽」「惑乱」などといった語が属する．

JAppraisal 辞書から特定のカテゴリに属する表現のみを抽出する場合，selection path よりも spID を利用することを推奨する．例えば，JAppraisal 辞書より肯定表現だけ抽出したい場合は，spID が「1-1」で始まるものを抽出すればよい．

どの程度詳細な分類を行う必要があるかによって，spID の下位の桁まで用いるのか（分類体系の下位カテゴリまで使用），spID の上位の桁のみ用いるか（分類体系の上位カテゴリのみ使用）区別するとよい．評価情報の集約の程度を調節する手段となる．評価の概要について分析する場合は上位の桁のみ利用し，詳細な分析をする場合は下位の桁まで利用するとよい．なお，spID の一部には「multi」と記載されているが，これは，最下位カテゴリが 2 つ以上にまたがるものである．

entrycondition （例 心状）最下位カテゴリより，1 つ上位のカテゴリ名．entry condition という．詳細については，第 4 章を参照のこと．

delicatefeature （例 歪み・不鮮明）selection path に記載された最下位カテゴリ名が記載されている．

realisation statement (rs) （例 +評価表現/ 評価表現: attitudinal lexis /評価表現: 評価対象の特徴 /+態度保持者 /態度保持者: 外世界付与者 ... ）評価表現を使用する際に，必須となる意味的要素の種類とそれにかかる制約（第 4 章の「semantic compositional element」(SCE) を参照のこと.）．なお，jappraisal.txt ファイルを excel で開くと，rs の値が「#NAME?」と表示されてしまうので，テキストエディタ等で開いて頂くか，excel を使用する場合は jappraisal.xlsx を利用して頂きたい．

3.3 分類体系記述データ (category.txt)

分類体系記述データには，JAppraisal 辞書で用いる分類体系の各カテゴリの定義文が掲載されている．分類体系の詳細については，第 4 章を参照のこと．アプレイザル分類データを用いて分析をする際に，selection path に記載されているカテゴリがどのような性質のものなのか確認できるよう用意してある．データに含まれる情報は以下の通りである．

spID （例 1-2-2-2-3-2-2）アプレイザル分類データとリレーションを貼る際に利用する．

sp （例 態度評価表現; 否定:外評価:自立; 非境界:内在:性質:欠如・不完全・単調）selection path.

definition （例 評価対象となる個体・ユニットに欠損がある，未熟・不完全であること，また，構造が単純であることを示す表現）selection path にある最下位カテゴリの定義文．簡易的にカテゴリの性質を理解するにはよいが，上位カテゴリの性質を下位カテゴリが受け継いでいることに注意して利用すること（参照 第 4 章）．

3.4 多義カテゴリデータ (ambiguity.txt)

JAppraisal 辞書に掲載されている表現は，複数の語義を持つものも含む．このデータでは,「ambi-category」にて見出し語の多義性に関する情報を付与してある．例えば「わたくし（私）語義：< ウ > 自分だけの利益や都合を考えること。」など，特定の語義の場合のみ態度評価表現となるものは除くなど，自動解析の際に分析対象とする態度評価表現を選択するのに利用できる．

appraisalID （例 ATD01736）収録された評価表現の ID. アプレイザル分類データとリレーションを貼る際に利用する．

ambiCategory 態度評価表現の多義性について，以下のうちいずれかに分類する．

- **mono** 語義が 1 つ．
- **ambisense_monofeature** 語義が 2 つ以上あるが，全ての語義が 1 つの評価カテゴリに属する．
- **ambisense_multifeature** 語義が 2 つ以上あり，2 つ以上の評価カテゴリに属する．但し，語義の全ては評価を示す．
- **ambisense_monofeature_partial** 語義が 2 つ以上あり，語義のうちの一部が 1 つの評価カテゴリに属する．但し，語義の一部が評価を示さない．
- **ambisense_multifeature_partial** 語義が 2 つ以上あり，語義のうちの一部が 2 つ以上の評価カテゴリに属する．但し，語義の一部が評価を示さない．

語義の曖昧性を解消する手段がない場合は，分析データが少量であれば人手で確認することを推奨する．大規模データを扱う場合は，mono 及び ambisense_monofeature, ambisense_multifeature に限定して分析を行うなど，曖昧性を考慮した分析が必要となる．

3.5 NDC 別頻度データ (bccwj_ndc.txt)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の出版サブコーパス (PSC) と図書館サブコーパス (LSC) におけるジャンル (日本十進分類法の一次区分) 別の頻度情報．同じ評価基準をもつ表現であっても，多様なジャンルで使用される傾向があるものと特定のジャンルで使用される傾向が強いものとがある．

評価表現の特徴をジャンル別に検討したり，特定のジャンル特有の評価表現をより汎用的な表現に言い換える際に利用できる．なお，jappraisal.txt では語義ごとに情報を付与してあるが，NDC 別頻度データは語ごとに情報を付与してある．なお，一部の語 (現代日本語書き言葉均衡コーパスの PSC と LSC に含まれていない，もしくは，headword が短単位の区切りとマッチしないもの) には，頻度情報が付与されていない．頻度情報の計測には『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の形態論情報付きデータを利用した [14].

headword （例 せいび）見出し語.

katakana （例 セイビ）見出し語のカタカナ表記.

notation （例 精美）見出し語の表記.

NDC 日本十進分類法の一次区分.

frequency1 当該の NDC における使用度数.

frequency2 当該の NDC における 100 万語あたりの頻度．使用度数を当該 NDC の総語数（記号・空白は除く）で割って算出した.

3.6 語彙密度データ (bccwj_lexd.txt)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の出版サブコーパス (PSC) と図書館サブコーパス (LSC) の可変長サンプルにおける語彙密度（情報の詰め込みの程度）の平均値の情報．当該の評価表現が，どの程度の語彙密度のサンプルで利用される傾向があるのか示すもの．語彙密度は，あるテクストにおける 1 節 (clause) あたりの内容語の平均値であり，written-like のテクストほど語彙密度は高くなり，spoken-like なテクストほど語彙密度は低くなるとされる [7]．厳密には，テクストにおける情報の詰め込み度の指標であり，同一文法単位（この場合は「節」）における語彙の過密さ (lexically dense) と文法的複雑さ (grammatically intricate) を計測するためのもの．語彙の過密さがあがるほど，文法的複雑さは低くなると考えられている（つまり，書き言葉らしいテクストは，語彙の過密さは高いが文法的複雑さは低い．一方，話し言葉らしいテクストは，語彙の過密さは高いが文法的複雑さが高い.）．例えば,「大切」という表現が使用されるサンプルの平均語彙密度は，3.30 であるのに対して「肝要」は 8.76 であり,「大切」に比べて「肝要」のほうが書き言葉らしいテクストにおいて使用される傾向が強いことが分かる．sp の情報と組み合わせることで，アカデミックライティングにおいて日常的な表現から学術的な表現への言い換えについて指導する場合や，専門的でわかりにくい評価表現を日常的な表現に言い換える際などに利用できる．なお，jappraisal.txt では語義ごとに情報を付与してあるが，語彙密度データは語ごとに情報を付与してある．なお，一部の語 (現代日本語書き言葉均衡コーパスの PSC と LSC に含まれていない，もしくは，headword が短単位の区切りとマッチしないもの．もしくは，当該の語が出現するサンプル数が 5 より小さいもの) には，語彙密度の情報が付与されていない．サンプルにおける節数の計測には日本語節境界検出プログラム CBAP[18] の分析結果から，選択体系機能言語理論における節 [8] に該当するものの数を計測している.

headword （例 せいび）見出し語.

katakana （例 セイビ）見出し語のカタカナ表記.

notation （例 精美）見出し語の表記.

lexave 当該の語が使用されるサンプルの語彙密度の平均値.

lexvar 当該の語が使用されるサンプルの語彙密度の分散.

3.7 統合データ 1 (jappraisal.xlsx)

全 txt ファイルを excel ファイルとしてまとめたものと，評価カテゴリの分類体系を示す図を掲載してある．各シートに含まれる情報は以下の通り．

jappraisal アプレイザル分類データを掲載.

category 分類体系記述データを掲載.

ambiguity 多義カテゴリデータを掲載.

bccjw_ndc NDC 別頻度データを掲載.

bccwj_lexd 語彙密度データを掲載.

merge アプレイザル分類データ，分類記述データの「definition」，多義カテゴリデータの「ambiCategory」を merge したもの.

system network 評価カテゴリの分類体系を示す図.

3.8 統合データ 2 (jappraisal.1.2.sqlite)

全 txt ファイルを sqlite3 フォーマットでまとめたもの．各 txt ファイルを table として格納してある.『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の形態論情報付きデータや，日本語 WordNet などの言語資源と併用する際に活用できる.

jappraisal アプレイザル分類データの table.

category 分類体系記述データの table.

ambiguity 多義カテゴリデータの table.

bccjw_ndc NDC 別頻度データの table.

bccwj_lexd 語彙密度データの table.

merge アプレイザル分類データ，分類記述データの「definition」，多義カテゴリデータの「ambiCategory」を merge した view.

jappraisal_ndc merge と bccwj_ndc を用いて delicatefeature と NDC でソートした view. ambiCategory が mono もしくは ambisense_monofeature のもののみ表示.

jappraisal_lexd merge と bccwj_lexd を用いて delicatefeature と lexave でソートした view．ambiCategory が mono もしくは ambisense_monofeature のもののみ表示.

3.9 まとめ

本章では，JAppraisal 辞書に含まれる 4 つのデータについて説明した．JAppraisal 辞書に掲載された表現全てを語義を問わず利用した場合，特定の語義の場合のみ評価表現となるものも含まれてしまうため，注意が必要である.

自動解析に用いる場合は「多義カテゴリデータ」を利用し，研究・目的に応じた語彙セットを編纂した上で，JAppraisal 辞書を活用して頂きたい[3]．次章では，評価カテゴリの分類体系について説明する.

[3]特定できる評価表現の量は減っても，評価表現として利用される可能性が高いもののみを扱いたい場合は多義語を利用しない．適合率は落ちても，特定できる評価表現の量を増やしたい場合は，多義語まで利用するなど.

第4章　態度評価表現の分類

4.1　本章の概要

本章では，以下の 2 点について説明する．

- JAppraisal 辞書において態度評価表現がどのような記述方法を用いて分類されているか
- どのような評価基準に関するカテゴリが設けられているか

なお，前章までは専門用語の使用を避ける目的で，評価の種類のことを「カテゴリ」と言ってきたが，本章以降「feature」という表現を用いる．

4.2　分類体系の記述方法

4.2.1　system network

JAppraisal 辞書における評価表現の分類体系の記述には，システミック理論で利用される system network（システムネットワーク）と呼ばれる手法を利用している．system network は，言語学者 M.A.K.Halliday らによって確立されたもので，全ての言語ユニット（表記ユニット，語彙–文法ユニット，意味ユニット）における体系記述に利用することができる[1]．基本的には，ある言語において特定の表現を使用する場合，話し手・書き手にどのような選択肢があり，また，選択肢を選ぶ際にどのような制約があるかを示すのが system network である．system network の記述において使用する用語・記号のうち，本分類体系で使用するものについて簡単に説明しておく[2]．まず，system network 記述の基本となる basic system（ベーシックシステム　図 4.1 参照）から見ていく．

図 4.1: basic system

図 4.1 に示した basic system は最もシンプルな system network で「if a, then b or c」の関係を示す．図中の「b」「c」は,「a」が選択された場合に可能な選択肢を示すもので **feature** と言う．並列する feature はどれか 1 つしか選択することができず，系列的 (paradigmatic) 関係にある．したがって，並列する feature を設ける際には,「b」かつ「c」というインスタンスが存在しないようにする必

[1]基本的に typological な関係の記述方法である．
[2]詳細については，Matthiessen[19] を参照されたい．

要がある（つまり,「b」「c」にはお互いが共有できない相違点が存在するということ）．なお，選択肢の数は 2 つより多くなることもある．

一方,「a」は「b」「c」を選ぶうえで前もって選択されている必要がある feature で，これを特に **entry condition** と言う．entry condition となる feature は,「b」「c」という選択肢の両方を選択できるものであるため,「b」「c」が共有する性質を備える必要がある．なお，system network において一番最初の起点となる entry condition のことを **point of origin** と言う．feature 及び entry condition は，英語の場合小文字で表記することになっているが，本稿では〈　〉を用いる[3]．

図中で「SYSTEM-A」と記載されている場所には，system（システム・選択体系）の名前が記載される．system は entry condition と feature 全体を指し，1 つの entry condition と feature の組み合わせを指す場合もあれば，複数の entry condition と feature の総体を指す場合もある．system 名は，英語の場合大文字で表記することになっているが，本稿では［　］を用いる．

basic system において選択できる feature は 1 つだけであるが，言語表現を選択する際には，異なる選択肢から同時に複数の選択を行う必要がある場合もある．このような場合は，simultaneous system (同時選択システム　図 4.2 参照) によって記述する．

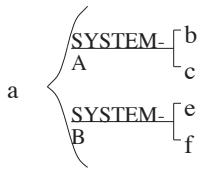


図 4.2: simultaneous system

simultaneous system は,「if a, then b or c, and, d or e」という関係を示す.「a」が entry condition として選択された時，[SYSTEM–A][SYSTEM–B] から 1 つずつ feature を選ぶ必要がある．

さらに，ある特定の feature が複数選択された場合のみ，選択することができる言語表現も存在する．このような場合は，conjunctive system (複合条件システム　図 4.3) によって記述する．

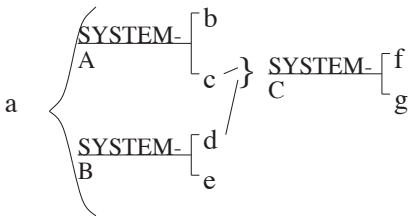


図 4.3: conjunctive system

conjunctive system は,「if c and d, then f or g」の関係を示す．[SYSTEM–A] から「c」が，[SYSTEM–B] から「d」が選択されたとき（これが entry condition である），[SYSTEM–C] の「f」「g」から 1 つ選択することができる[4]．

[3]system netowrk の図では括弧は省略する．
[4]gate と呼ばれ，選択肢が 1 つしかない場合もある．

4.2.2 realisation statement

4.2.1 で entry condition は，ある system から feature を選ぶ際に前もって選択されていなければならない feature を制約するものであると述べた．このような制約を設けることは分類体系を記述するうえで重要であるが，これとは別に，当該の feature を選ぶときに満たされなければならない制約も存在する．system network の記述においては，**realisation statement** によってこのような制約（entry condition が機能的 “制約” を示すのに対して，基本的には，構造的な “制約”）を記述する．ここでは，realisation statement の記述において必要となる用語・記号（insert「+」，preselect「:」）について説明する[5]．なお，system network において realisation statement は feature の下に記述される．また，realisation statement は 1 行に 1 つの制約を書くものであるが，本稿ではスペースの都合上 2 行にまたがることもある．

insert（挿入） 「+」によって表され，feature を選択する際は,「+」の後に指定される構成要素を挿入しなければならないことを意味する．例えば，point of origin が「節単位」のときに「+動詞」と指定があれば，その system network は節単位のうち動詞が挿入されているものに限定される．

preselect（先行指定） 「:」によって表され，構成要素として選択できるものに制約をかける．例えば,「味わう」という動詞を選択する場合，擬人法などが使われていない限り基本的に主語は人間となるが，これを「主語:人間」と指定することで「味わう」を選択する上での制約として設ける．

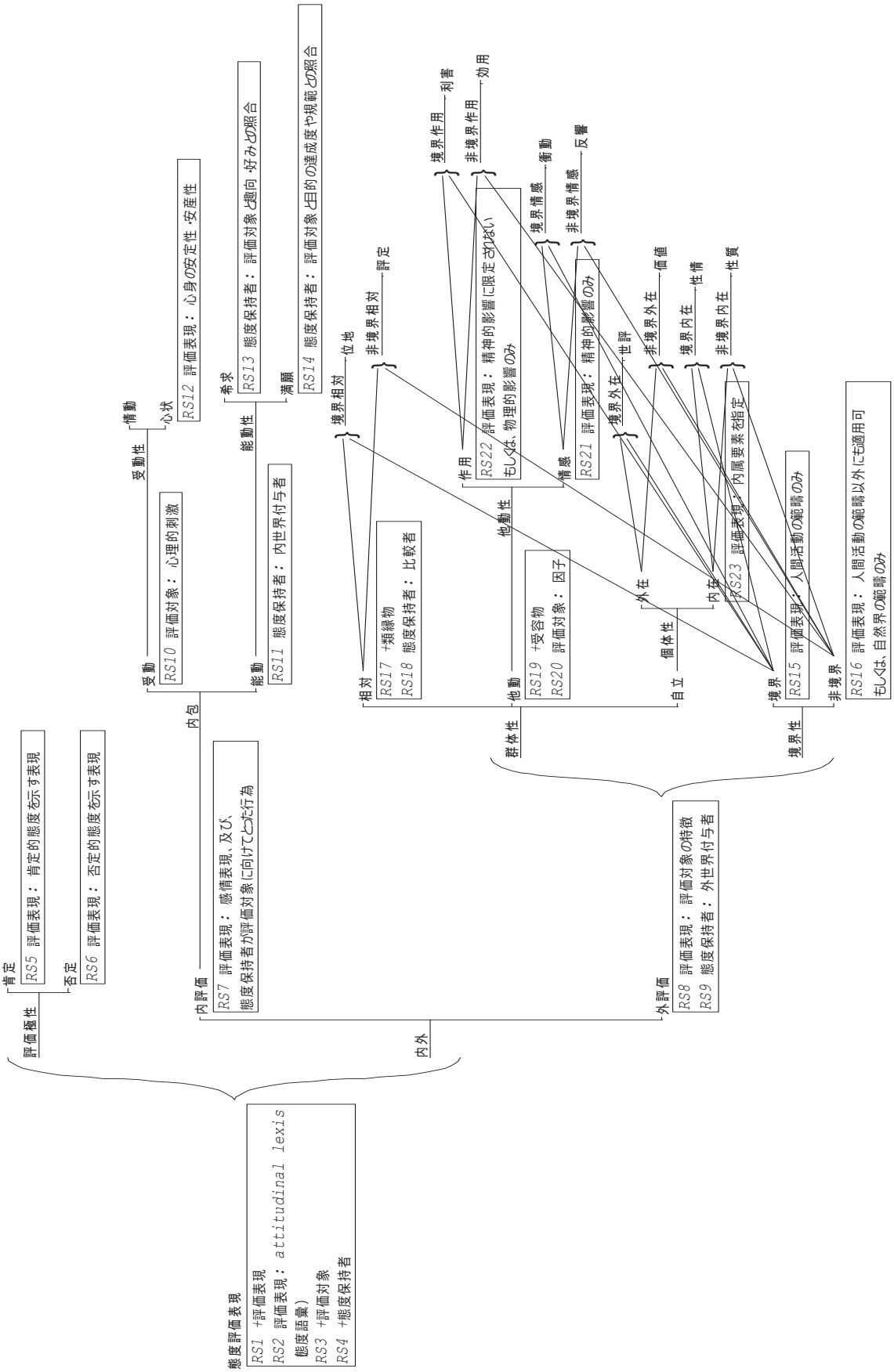
当該の feature の realisation statement は，それ以降の選択にも蓄積されていく．例えば,「if a then, b or c」において,「a」に「+主語」という realisation statement があるのであれば,「b」「c」も「+主語」という realisation statement を引き継ぐ．すなわち,「+主語」というのは「b」「c」の構造上の共通項と考えてもよい．このような記述方法に則り，評価表現の分類体系を記述した．

4.3 分類体系概説

本辞書で用いる分類体系は，先述した通り，英語における attitude の system network をベースとしてスタートし，これを日本語に適用できるように再構築したものである [34]．分類体系の主要部を図 4.4 に示す．

本辞書では，態度評価表現を総計 227 の feature に分類した．以下，各 system と feature について説明していく．なお，説明において例文を提示することがあるが，出典が明記されているものは全て国立国語研究所が中心となって構築した日本で最初の大規模バランストコーパスである『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(http://www.tokuteicorpus.jp/) に収録されたサンプルからである．出典が明記されていないものは作例である．また，語義を示すことがあるが，出典は岩波国語辞典第五版[6]である．

[5]他にも，構成要素の順番を指定するもの（ordering）などがあるが，詳細については Matthiessen[19] を参照．
[6]現在では，第 7 版まで刊行されている．



注 UAMcorputool(http://www.wagsoft.com/CorpusTool/)を用いてsystem networkを記述した.

図 4.4: JAppraisal 辞書における評価表現の分類体系の主要部

4.3.1 point of origin 〜〈態度評価表現〉〜

【definition】 第 2 章で述べたように，JAppraisal 辞書において扱うのは〈態度評価表現〉に該当するものである．アプレイザル理論で扱われている他の評価表現 ‘engagement’ や ‘graduation’ は，本 version では扱っていない．

attitude（態度評価表現） 「よい」「わるい」など，ある対象への肯定的・否定的態度を示すことで評価を表すもの

engagement（形勢評価表現） 「〜はずだ」「〜かもしれない」「〜によると」など文・発話によって提示された立場とディスコースに存在する他の立場との関係性を示すことで評価を表すもの

graduation（程度評価表現） 「〜すぎる」「とても〜」「〜の需要は多い」「〜なことは希である」など程度を示すことで評価を表すもの

【realisation statement】 評価表現のうち,〈態度評価表現〉に限定するために以下の realisation statement を設けることとする．なお，当該の system network において，insert (+) に後続する要素は semantic compositional element （意味的構成要素，以下，SCE）と呼ぶことにする．SCE は，意味層に属するものであるため特定の言語ユニットや品詞に限定されないという性質をもち，また，評価を表す際に利用される言語ユニットの種類や品詞によっては必ずしも明示されない．但し，コンテクストには存在することが必須であり，コンテクストに関する情報が十分あれば，当該要素に該当するものが何であるか特定できる必要がある．

RS1 +評価表現
RS2 評価表現: attitudinal lexis （態度語彙）/ 使用される評価表現は，評価極性を示すこと
RS3 +評価対象 / 評価の対象となるものが存在すること
RS4 +態度保持者 / 評価極性を示す人間活動の主体（人，組織，国家など）が存在すること

【instance】
(1) には，評価表現「楽しむ」が存在するため RS1 を満たす.「楽しむ」は肯定的態度を示すため「RS2」を満たす．さらに，評価を表す対象である「囲碁」が存在するので RS3 を満たす．また，この発話の場合，発話者が「囲碁」に対する評価を示す人間活動の主体と解釈できるため RS4 を満たす．

(1) その日も囲碁を <u>楽しん</u> だ

（横内猛『心の扉をひらく』より）

一方で (2) の下線部「かもしれない」は,「囲碁」に対する評価を示すものでなく evidentability や hedging として扱われるべき内容であり,〈態度評価表現〉とは観点の異なる評価の提示方法の 1 つである．アプレイザル理論では形勢評価表現の 1 つとして扱うもので,〈態度評価表現〉の対象とはならない．

(2) その日も囲碁を楽しんだ <u>かもしれない</u>

4.3.2 システム [評価極性]

【description】 態度評価表現の分類で最も一般性が高いもののひとつは，態度評価表現が肯定的態度を示すか，否定的態度を示すかである．多くの評価表現の分類では，極性が異なれば違うカテゴリを設けることが多いが，肯定・否定と極性は異なっても，表現の間に共通点を認めることができる

ものがある．そこで JAppraisal 辞書において［評価極性］は，後述するシステム［内外］と系列関係にない同時選択システムとして設けてある．例えば「安心」・「恐怖」などは,［評価極性］において「安心」は〈肯定〉,「恐怖」は〈否定〉と選択が異なるが，共に後述する「〈心状〉」という feature に属する表現として位置づけられる．

【entry condition】

- feature 〈態度評価表現〉の選択

【feature】　システム［評価極性］の feature は以下のものである．

〈肯定〉 (positive)
〈否定〉 (negative)

〈肯定〉

【realisation statement】

RS5 評価表現: 肯定的態度を示す表現

【instance】　(3) の「有効」は，態度保持者の「わらしべ長者の法則」に対する肯定的態度を示すため，RS5 を満たし〈肯定〉とする．

(3) これには「わらしべ長者の法則」を用いると 有効 だ

（中森勇人『関西商魂』より）

〈否定〉

【realisation statement】

RS6 評価表現: 否定的態度を示す表現

【instance】　(4) の「だらしがない」「無力」は，態度保持者の「侍」に対する否定的態度を示すため，RS6 を満たし〈否定〉とする．

(4) そういう点は職人より侍のほうがよっぽど だらしがなく て，また 無力 でもあるようだ

（山手樹一郎『雪の駕籠』より）

4.3.3　システム [内外]

【description】　〈態度評価表現〉を使用して評価を表す場合，態度保持者には [評価極性] 以外に大別して 2 つの選択肢がある．1 つは，評価対象との接触によって個人の精神世界に特定の感情が内包されたことを示す，もしくは，評価対象に対して態度保持者がとる行為（多くの場合は，特定の感情を内包した結果としてあらわれる行為）を示すことによって評価を表す方法，もう 1 つは，態度保持者が評価をコミュニティにおける評価対象の「特徴」[7]として表す方法である．どちらの方法が選択されたかを表すのがシステム［内外］である．

[7] ここでは,「特徴」を態度保持者が属するコミュニティにおける位置づけと捉える．

【entry condition】

- feature 〈態度評価表現〉の選択

【feature】 システム［内外］の feature は以下のものである．

〈内（ない）評価〉 (internalised) 評価対象との接触によって特定の感情が個人の精神世界に内包されたことを示す，もしくは，評価対象に対して態度保持者がとる行為によって評価を表すもの

〈外（がい）評価〉 (externalised) 態度保持者が評価をコミュニティにおける評価対象の特徴として表すもの

〈内評価〉

【realisation statement】

RS7 評価表現: 感情表現，及び，態度保持者が評価対象に向けてとった行為を示す表現

【instance】 先例 (1) の「楽しむ」は，態度保持者が囲碁をしたことによって内包した感情を示すので，RS7 を満たし〈内評価〉とする．また以下の (5) は態度保持者が評価対象「妻」「会社」にとった行為であり，これも RS7 を満たすものであるから〈内評価〉とする．態度保持者の行為は必ずしも感情と同義ではないものの，評価対象の特徴を示すのではなく，態度保持者自身の感情や行為を表現することで評価を表すものであるという点で共通している．また,「泣く」「笑う」のように〈内評価〉に該当する行為の多くは，当該の行為が起こる際に感情を伴う，もしくは，感情を内包した結果として起こるものが多い．

(5) 毎日毎日，家族の将来を考えています．毎日毎日．妻にも，会社にも 感謝 しています

（西出真由美 『がんばって！っていわないで.』より）

〈外評価〉

【realisation statement】

RS8 評価表現: 評価対象の特徴

RS9 態度保持者: 外世界付与者 ／ 態度保持者は評価対象の特徴を付与する役割を担う者

【instance】 先例 (3)「有効」(4)「だらしがない」「無力」は，態度保持者の感情や行為を表すものでなく，評価対象の特徴を示すので RS8 を満たし，かつ，この発話において態度保持者は「わらしべ長者の法則」「侍」の特徴を付与する役割を担っているので R9 を満たし〈外評価〉とする．同様に，(6)「勇猛」も評価対象「女真族」の特徴を示すので RS8 を満たし，かつ，態度保持者は「女真族」の特徴を付与する役割を担っているので R9 を満たす．よって,〈外評価〉とする．

(6) 女真族は,「その数，万に満たず．万に満つれば敵すべからず.」といわれるほど 勇猛 の民であった

（田中芳樹『岳飛伝』より）

4.3.4　システム [内包]

【description】　〈内評価〉を使用して評価を表す場合，態度保持者はシステム [内包] の feature より選択を行う．システム [内包] は，文のヴォイスについて受動態・能動態の違いを表すものでなく，以下に説明する通り，感情の内包，もしくは，行為が起こる際の評価対象と態度保持者の方向性の違いを示すものである．

【entry condition】

- feature 〈内評価〉の選択

【feature】　システム［内包］の feature は以下のものである．

〈受動〉 (passive)　評価対象からの感化によりわき起こる感情・行為を示すことで評価を表すもの．評価対象→態度保持者の方向性が認められる

〈能動〉 (active)　態度保持者の好みや意思により態度保持者個人の世界に評価対象をどのように位置づけるかを示すことで評価を表すもの．態度保持者→評価対象の方向性が認められる

〈受動〉

【realisation statement】

RS10 評価対象: 心理的刺激　／　評価対象が態度保持者の感情・行為を感化する

【instance】　(7) において態度保持者の感情である「安心」は，評価対象である「その言葉」によって感化されたもので RS10 を満たすため〈受動〉とする．

(7) 彼はその言葉を聞いて 安心 した

（天宮一大『ラグビーボールを抱きしめて』より）

〈能動〉

【realisation statement】

RS11 態度保持者: 内世界付与者　／　態度保持者は感情，もしくは，自身の行為として評価対象を個人の世界に位置付ける

【instance】　(8) において態度保持者が「愛慕」するという行為を「文豪トルストイ」に対してとることを示すことで，評価対象が態度保持者個人の精神世界において肯定的に位置づけられることを示すため R11 を満たす．よって,〈能動〉とする．基本的に,〈能動〉に分類される感情・行為は，態度保持者が能動的な役割を果たすため，当該の感情を内包するか・行為をとるか，コントロールできる場合が多い．また，態度保持者の好みや意思の変化に伴い，位置づけも変化する．

(8) 明治三十九（一九〇六）年に 愛慕 してやまない文豪トルストイをロシアに訪れ

（岩井洋『国木田独歩空知川の岸辺で』より）

4.3.5 システム [受動性]

【description】 〈受動〉を使用して評価を表す場合，態度保持者はシステム [受動性] の feature より選択を行う．システム [受動性] における選択によって，話し手・書き手は評価対象によって感化された感情・行為がどのような性質のものか選択する．

【entry condition】

- feature 〈受動〉の選択

【feature】 システム［受動性］の feature は以下のものである．

〈心状〉 (state of heart) 心の状態．評価対象による感化によって態度保持者が心身の安定性・安全性・危険性などに関連する感情を内包したことを示すことで評価を表すもの

〈情動〉 (affair of heart) 心の出来事．評価対象による感化によって態度保持者が喜怒哀楽や感動などに該当する感情を内包したことを示すことで評価を表すもの．基本的には，突発的なものが多い

〈心状〉

【realisation statement】

RS12 評価表現: 心身の安定性・安全性を示す表現

【instance】 (9) において態度保持者は「悪夢」によって「恐怖」を感化され内包する.「恐怖」は，心身の安定性・安全性を示す表現であるため RS12 を満たす．よって,〈心状〉とする．

(9) 悪夢による <u>恐怖</u> が通過した

（伊野上裕伸『特別室の夜』より）

〈肯定〉かつ〈心状〉には，以下のようなものがある．

安心・安堵 態度保持者が評価対象によって，安心，安堵できることを示す表現

気楽さ・気軽さ 態度保持者が評価対象によって，気楽，気軽になる，もしくは，気兼ねがいらないことを示す表現

覚醒・正気 態度保持者が評価対象によって，迷いが覚める，もしくは，健全な精神状態になることを示す表現

〈否定〉かつ〈心状〉には，以下のようなものがある．

焦り・苛立ち 態度保持者が評価対象によって，焦る，苛立ちを覚える，心が落ち着かないことを示す表現
鬱気・蟠り 態度保持者が評価対象によって，気がふさぐ，晴れ晴れしないことを示す表現
恐怖 態度保持者が評価対象を怖がり，恐れることを示す表現
苦しみ・痛み・つらさ 態度保持者が評価対象によって，苦しみ，痛み，つらさを覚えることを示す表現
困却・心労・気疲れ 態度保持者が評価対象によって，困る，苦労する，気疲れすることを示す表現
淋しさ・失意・消沈 態度保持者が評価対象によって，さみしくなる，心がふさぐ，しょげる，気が沈むことを示す表現
心配・不安・悩み 態度保持者が評価対象によって，心配，懸念を覚えること，安心できないことを示す表現
動揺・ショック・乱心 態度保持者が評価対象によって，うろたえる，ショックをうける，正気を失うことを示す表現
恥 態度保持者が評価対象を恥じ入ることを示す表現

〈情動〉

【realisation statement】

realisation statement なし.〈受動〉のうち,〈心状〉の realisation statement(RS12) を満たさないものが該当する

【instance】 (10) において態度保持者は「かわらない不器用さに再会できた」ことによって「喜び」を感化され内包するが,「喜び」を内包する際に,「かわらない不器用さに再会できた」に対する心身の安定性・安全性に関する判断を要さないため RS12 を満たさない．よって,〈情動〉とする．

(10) 変わらない不器用さに再会できた 喜び

（福井晴敏『川の深さは』より）

〈肯定〉かつ〈情動〉には，以下のようなものがある．

嬉しさ 態度保持者が評価対象によって，嬉しく感じることを示す表現
快感 態度保持者が評価対象によって，快感を得ることを示す表現
感動 態度保持者が評価対象によって，感動することを示す表現
高揚 態度保持者が評価対象によって，高揚することを示す表現
楽しさ・愉快さ 態度保持者が評価対象によって，楽しく，愉快に感じることを示す表現
照れ 態度保持者が評価対象によって，照れくさくなることを示す表現
喜び・幸せ 態度保持者が評価対象によって，喜び，幸せに感じることを示す表現

〈否定〉かつ〈情動〉には，以下のようなものがある．

怒り 態度保持者が評価対象によって，怒りを覚えることを示す表現
悲しさ 態度保持者が評価対象によって，悲しみを感じることを示す表現
興ざめ・不愉快 態度保持者が評価対象のことを不愉快に思う，興が醒めることを示す表現

4.3.6 システム [能動性]

【description】 〈能動〉を使用して評価を表す場合，態度保持者はシステム [能動性] の feature より選択を行う．システム [能動性] における選択によって，話し手・書き手は何を基準として内世界に評価対象を位置づけるか選択する．

【entry condition】

- feature 〈能動〉の選択

【feature】 システム［能動性］の feature は以下のものである．

〈希求〉 (desire) 態度保持者の趣向・好みと評価対象を照合して愛情・希望・欲求等を示すことで評価を表すもの

〈満願〉 (satisfaction) 目的の達成度や態度保持者がもつ規範と評価対象を照合して満足度・敬意等を示すことで評価を表すもの

〈希求〉

【realisation statement】

RS13 態度保持者: 評価対象と趣向・好みとを照合する者

【instance】 (11) において書き手は，態度保持者「信長」の趣向が「剣の刃を渡るような危険にわざと身を晒すの」に合致するものであったことを「好む」という言葉を用いて表しているため RS13 を満たす．よって,〈希求〉とする．

(11) 信長にはこのように，剣の刃を渡るような危険にわざと身を晒すのを 好む 傾きが見受けられるんですね

（津本陽『歴史に学ぶ』より）

〈肯定〉かつ〈希求〉には，以下のようなものがある．

愛情 態度保持者が評価対象のことを愛する，大切にすることを示す表現
激する・勇む 態度保持者が評価対象に向かって，勇むことを示す表現
好む 態度保持者が評価対象のことを好むことを示す表現
熱中・心酔 態度保持者が評価対象に夢中になることを示す表現
欲心・志・惜しむ 態度保持者が評価対象のことを欲する，志す，希望する，惜しむことを示す表現

〈否定〉かつ〈希求〉には，以下のようなものがある．

憐れむ 態度保持者が評価対象を不憫，気の毒に思うことを示す表現
恨み・憎しみ・妬み 態度保持者が評価対象を恨む，妬む，憎いと思うことを示す表現
億劫・躊躇い 態度保持者が評価対象をためらう，躊躇することを示す表現
嫌う・疎む 態度保持者が評価対象を嫌いである，疎む，忌むことを示す表現

〈満願〉

【realisation statement】

RS14 態度保持者: 評価対象と目的の達成度や規範とを照合する者

【instance】 (12) において態度保持者は評価対象「冒険」と目的の達成度を照合し，これが合致していることを「満足」という言葉を用いて表しているため RS14 を満たす．よって,「満足」は〈満願〉とする．

(12) 今回の冒険にすっかり 満足 したぼくらは...

（トマス・ハーディ 著 はやしたかし 訳『水源の秘密』より）

〈肯定〉かつ〈満願〉には，以下のようなものがある．

祝う 態度保持者が評価対象のことを祝うことを示す表現
敬い・憧れ・尊敬 態度保持者が評価対象のことを敬う，尊敬する，あこがれる，敬意を示すことを示す表現
感謝 態度保持者が評価対象のことを感謝することを示す表現
期待・信頼・信用 態度保持者が評価対象のことを信頼，信用，期待することを示す表現
称賛・感心 態度保持者が評価対象のことを称賛する，感心することを示す表現
誇り・自負・自慢 態度保持者が評価対象のことを誇りに思うことを示す表現
満足 態度保持者が評価対象に満足していることを示す表現
容認・賛同・推薦 態度保持者が評価対象のことを容認，賛同，推薦することを示す表現

〈否定〉かつ〈満願〉には，以下のようなものがある．

飽き・退屈 態度保持者が評価対象のことを退屈に思う，飽きていることを示す表現
不平・不満足・諦め 態度保持者が評価対象のことを不平，不満足に思う，諦めている，呆れていることを示す表現
疑惑・不信 態度保持者が評価対象のことを疑っている，不信に思うことを示す表現
軽蔑・軽視 態度保持者が評価対象のことを軽蔑，軽視することを示す表現
反感・批判・罵倒 態度保持者が評価対象に反感をもつ，批判する，罵倒することを示す表現
後悔・後ろめたさ・悔しさ 態度保持者が評価対象のことを後悔する，後ろめたく思う，悔しく思うことを示す表現
謝罪 態度保持者が評価対象に謝罪の念をもつことを示す表現
否認・禁止・戒め 態度保持者が評価対象を否認する，禁止する，戒めることで否定的態度を示す表現

4.3.7 システム [境界性]

【description】 〈外評価〉を使用して評価を表す場合，態度保持者はシステム [境界性] の feature より選択を行う．システム [境界性] における選択によって，話し手・書き手は，評価表現が人間活動の評価に用いられるものか，それとも，人間活動の範疇を超えて用いられるものか選択する．

【entry condition】

- feature 〈外評価〉の選択

【feature】 システム［境界性］の feature は以下のものである．

〈境界〉 (bounded) 基本的には人間活動の主体・行動・生産物にのみに適用可能な表現を用いて評価を示すもの

〈非境界〉 (unbounded) 〈境界〉に該当しないもの．すなわち，人間活動の主体・行動・生産物以外にも適用可能な表現，もしくは，自然界の事象にのみ適用可能な表現を用いて評価を示すもの

〈境界〉

【realisation statement】

RS15 評価表現: 基本的に，人間活動の主体・行動・生産物にのみ適用可能な表現

【instance】 (13)「そつがない」は，擬人法などが使用されない限り，基本的には人間活動の行為にのみ適用可能な表現である．このため (13) の評価対象「彼女の料理」の評価には利用できるが，(14) の評価対象「アサリ」には用いることができず，非文となる．ゆえに，R15 を満たし「そつがない」は〈境界〉とする．

(13) 彼女の料理は そつがない

(14) *アサリは そつがない

〈非境界〉

【realisation statement】

RS16 評価表現: 人間活動の主体・行動・生産物以外にも適用可能な表現，もしくは，自然界の事象にのみ適用可能な表現

【instance】 (15)「おいしい」は，評価対象が「彼女の料理」であっても「アサリ」であっても適用可能である．ゆえに，RS16 を満たし〈非境界〉とする．

(15) 彼女の料理/アサリ はおいしい

一般的には「物」として捉えられることが多い人間活動の生産物まで〈境界〉の評価対象に含めたのは，生産物に対しても，主体や行為と同様の態度評価表現が用いられることが多いためである．例えば,「非人道的」という表現は，(16) や (17) のように生産物にも多く利用される．一方で,「アサリ」については「アサリ」が擬人化されていない限り人道的か非人道的か問うことはできない．

(16) 絞首刑を採用しているが，電気椅子でもまだ 非人道的 だ

（塩田丸男『辞書にでていない言葉の雑学事典』より）

(17) 核兵器は 非人道的 兵器である

（佐々木毅ほか『政治・経済』より）

日本語では，人だけでなく，人によって作られ，物として切り離された生産物にまで，作成者の道徳感や気質がついてまわると考えられ，これが態度評価表現が適用できる評価対象の境界の位置に影響していると考える．自然界の事象も人間活動に取り込まれることがあり，この境界の位置は絶対的なものではないが，一方で，人間活動の評価にのみ利用できる評価の観点が存在するのも事実である．本辞書では，この違いを無視するよりも，分類を試みるほうが，評価の多様性を示す上で有益であると考え,〈境界〉〈非境界〉を設けている．

4.3.8　システム [群体性]

【description】　〈外評価〉を使用して評価を表す場合，態度保持者はシステム [境界性] 以外に，システム [群体性] の feature より選択を行う．システム [郡体性] における選択によって，話し手・書き手は，グループにおける評価対象の位置づけとして評価を示すのか，対（つい）における評価対象の位置づけとして評価を示すのか，個における評価対象の位置づけとして評価を示すのか選択する．

【entry condition】

- feature 〈外評価〉の選択

【feature】　システム［群体性］の feature は以下のものである．

〈相対〉 (relative)　コミュニティに存在する他のグループ要素と評価対象の比較を必須とし，特異性や異質性を示すことで評価を表すもの

〈他動〉 (transitive)　評価対象が他の要素へ物理的，もしくは，精神的な影響を与えるかについて示すことで評価を表すもの

〈自立〉 (individual)　評価対象と他の要素との関係を必ずしも前提とせず評価を表すもの

〈相対〉

【realisation statement】

RS17 +類縁物　／　評価対象と比較される要素．当該の要素は，評価対象と同じグループに属する必要がある

RS18 態度保持者: 比較者　／　態度保持者が，評価対象を類縁物と比較する役割を担う者

【instance】　(18) では，類縁物は日本のナンバープレートであり，態度保持者である書き手は評価対象であるオーストラリアのナンバープレートと比較を行っている．日本のナンバープレートとオーストラリアのナンバープレートは共に「ナンバープレート」というクラスに属する要素である．ゆえに，RS17・18 を満たし「個性的」は〈相対〉とする．

(18) オーストラリアでは，車のナンバープレートが実に多彩で <u>個性的</u> である．日本と違って，比較的自由にデザインや識別記号を換えることができるからだ

（豊永典子『100%オージーライフ』より）

〈相対〉の下位分類

〈位地〉

〈境界〉かつ〈相対〉の feature を**〈位地〉(social location)** とする．
〈肯定〉かつ〈位地〉には，以下のようなものがある．

異彩・独創・新進 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，普通からかけ離れ，独創的であること，また，目新しさがあることを示す表現

珍無類・奇才 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，珍しく数が少ないものであること，また，珍しい才能をもつことを示す表現

特別・例外 評価対象となる人間活動の主体・生産物等，もしくは，その行為が特別なものであることを示す表現

英俊・秀抜 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，他よりもはるかに優れている，普通とは大きく異なることを示す表現

比肩 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，他に匹敵することを示す表現

高位 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の身分，位などが他に比べ高いことを示す表現

王者・盛り・至徳 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，この上なくよい，優れていることを示す表現

上手（うわて） 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，他に優ることを示す表現

抜擢 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，多くのもののなかから，選ばれたものであることを示す表現

〈否定〉かつ〈位地〉には，以下のようなものがある．

異端・風狂・奇矯 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が普通と違っている，異端なものである，奇矯なものであることを示す表現

凡骨・陳腐・旧態 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が平凡なものである，陳腐である，古臭いものであることを示す表現

下手（かて） 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の身分，位などが他に比べ低いことを示す表現

劣勢 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他よりも劣っていることをしめす表現

〈評定〉

〈非境界〉かつ〈相対〉の feature を**〈評定〉(location)** とする．
〈肯定〉かつ〈評定〉には，以下のようなものがある．

卓絶 評価対象となる個体・ユニットが他よりもはるかに優れている，普通とは大きく異なることを示す表現

上位 評価対象となる個体・ユニットが他に優ることを示す表現

至高・最良 評価対象となる個体・ユニットがこの上なくよい，優れていることを示す表現

神秘・唯一・目新しさ 評価対象となる個体・ユニットが珍しく貴重である，新しさがある，人知を超えた現象であることを示す表現

選抜 評価対象となる個体・ユニットが多くのもののなかから，選ばれたものであることを示す表現

独特 評価対象となる個体・ユニットが他と異なり，特有であることを示す表現

匹敵 評価対象となる個体・ユニットが他に匹敵することを示す表現

〈否定〉かつ〈評定〉には，以下のようなものがある．

異状・異質・奇妙 評価対象となる個体・ユニットが普通と違っている，異質なものである，奇妙なものであることを示す表現

逸脱・法外 評価対象となる個体・ユニットが法則や基準からずれている，離れたものであることを示す表現

有象無象 評価対象となる個体・ユニットがありふれていることを示す表現

劣等・最下 評価対象となる個体・ユニットが最下であること，もしくは，他より劣るものであることを示す表現

〈他動〉

【realisation statement】

RS19 +受容物　／　評価対象の影響を受けるもの，もしくは，その範囲
RS20 評価対象: 因子　／　受容物に影響を与えるもの

【instance】　(19) では，受容物は「塩分排泄」であり，評価対象である「マグネシウムの多く入ったミネラルフォーターをいっしょに飲む」が影響を与える範囲を示している．また，評価対象は受容物に「効果的」な影響を与える．ゆえに，RS19・20 を満たし「他動」とする．

(19) マグネシウムの多く入ったミネラルウォーターをいっしょに飲むと，さらに塩分排泄に効果的

（海原純子『きれいへの医学』より）

〈自立〉

【realisation statement】

realisation satement なし.〈外評価〉のうち,〈相対〉〈他動〉の realisation statement(RS17〜20) を満たさないものが該当する.

【instance】　(20) では，態度保持者が評価対象である「子」を「かしこい」という表現を用いて評価しているが，この際，かならずしも，類縁物や受容物を必要としない．また，態度保持者は「子」を「かしこい」と評価する際に，他の要素と比較することが必須ではないし，また,「子」が他に与える影響について把握する必要もない．ゆえに，R17〜20 を満たしておらず,〈自立〉とする．

(20) なんて かしこい 子だろう

（三神廣子『本が好きな子に育つために』より）

4.3.9　システム [他動性]

【description】　〈他動〉を使用して評価を表す場合，システム [他動性] の feature より選択を行う．システム [他動性] における選択によって，話し手・書き手は，評価対象が与える影響が精神的なものに限定される表現を用いて示されるのか，精神的なもの以外にも使用できる，もしくは，物理的影響にしか使用できない表現を用いて示されるのか選択する．

【entry condition】

- feature 〈他動〉の選択

【feature】 システム［他動性］の feature は以下のものである．

〈情感〉 (psycho-influential) 精神的影響についてのみ示す表現を使って評価を表すもの

〈作用〉 (influential) 精神的影響に限定されない，もしくは，物理的影響について示す表現を使って評価を表すもの

〈情感〉

【realisation statement】

RS21 評価表現: 精神的影響についてのみ示す表現

【instance】 (21) では,「おぞましい」(語義: ((形)) おろかしくて，いやな感じだ．ぞっとするようだ.）という表現が用いられているが，これは評価対象である「殺人事件」が受容物である「マギー」に与える精神的影響を示している．ゆえに，RS21 を満たし〈情感〉とする．

(21) ドクター・ホームズの作業を見守るうちに，マギーはいつの間にか おぞましい 殺人事件の追体験をしはじめていた

（新井ひろみ『刹那の囁き』より）

〈情感〉の下位分類

〈衝動〉

〈境界〉かつ〈情感〉の feature を**〈衝動〉(impression)** とする．
〈肯定〉かつ〈衝動〉には，以下のようなものがある．

愛嬌・魅惑・艶美 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が可愛らしい，魅力的，あでやか，つややかで気をひかれることを示す表現

祝事 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が喜ばしさ，めでたさを与えるものであることを示す表現

快技・気安さ・慰安 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が心を晴れ晴れさせる，快くさせる，苦心を与えないことを示す表現

風雅・おかしさ・収攬 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，風雅，おかしさ，感銘を与えることを示す表現

〈否定〉かつ〈衝動〉には，以下のようなものがある．

苛立てる 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他を怒らせる，苛立たせることを示す表現

みじめ・痛ましさ・惨たらしさ 評価対象となる人間活動の主体・生産物等がみじめさ，痛ましさ，惨たらしさを感じさせることを示す表現

誘惑・扇動 評価対象となる人間活動の主体・生産物等がたぶらかす，まどわす，そそのかすものであることを示す表現

うざったさ・煩わしさ 評価対象となる人間活動の主体・生産物等がわずらわしい，目障り，うざったいことを示す表現

窮命・気苦しさ 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他を苦しめる，気苦しくさせる，堅苦しくさせることを示す表現

興醒まし・滑稽 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が興を醒ましてしまう，つまらなくさせることを示す表現

頼りなさ 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が心細くさせることを示す表現

難儀・難解 評価対象となる人間活動の主体・生産物等がやっかいである，わかりにくいことを示す表現

憎々しい・生意気 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が憎々しい思いを感じさせることを示す表現

辱める・名折れ 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他に恥をかかせる，他の恥となることを示す表現

不快・卑しさ・醜行 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が不快にさせる，醜く，卑しさを感じさせることを示す表現

〈反響〉

〈非境界〉かつ〈情感〉の feature を**〈反響〉(sensation)** とする．
〈肯定〉かつ〈反響〉には，以下のようなものがある．

趣き・面白み・印象的 評価対象となる個体・ユニットが他に趣，面白み，感銘を与えることを示す表現

快事 評価対象となる個体・ユニットが他に晴れ晴れとした気持ち，安堵，気持ちよさを与えることを示す表現

美味 評価対象となる個体・ユニットが他に味覚的なすばらしさを感じさせることを示す表現

芳香 評価対象となる個体・ユニットが他に嗅覚的なすばらしさを感じさせることを示す表現

見好い 評価対象となる個体・ユニットが他に視覚的なすばらしさを感じさせることを示す表現

魅了・かわいさ 評価対象となる個体・ユニットがかわいらしさなどで他の心をひきつけることを示す表現

〈否定〉かつ〈反響〉には，以下のようなものがある．

苛む・苦しめる・惨め 評価対象となる個体・ユニットが他を苛むこと，苦しめること，悩ますことを示す表現

脅威・不気味 評価対象となる個体・ユニットが他に脅威を与える，恐ろしいと思わせることを示す表現

陰気・汚らしさ 評価対象となる個体・ユニットが他に視覚的な不快感を与えること，また，陰気な感覚を与えることを示す表現

喧騒 評価対象となる個体・ユニットが他に聴覚に関する不快感を与えることを示す表現

臭気 評価対象となる個体・ユニットが他に嗅覚に関する不快感を与えることを示す表現

不味さ 評価対象となる個体・ユニットが他に味覚に関する不快感を与えることを示す表現

無味 評価対象となる個体・ユニットが他の興を醒ますことを示す表現

物寂しさ・悲況 評価対象となる個体・ユニットが他を寂しく，もしくは，悲しくさせることを示す表現

〈作用〉

【realisation statement】

RS22 評価表現: 精神的影響に限定されない，もしくは，物理的影響について示す表現

【instance】 (22) では,「助ける」(語義: 危険や死からのがれさせる．救う.）という表現が用いられているが，これは「私」が受容物である「弓子さん」に肯定的な物理的影響を与えたことを示している．ゆえに，RS22 を満たし〈作用〉とする．

(22) 工事現場に倒れていた弓子さんを 助けた のは，この私なの

（上原瑛『黒の葬列』より）

〈作用〉の下位分類

〈利害〉

〈境界〉かつ〈作用〉の feature を**〈利害〉(benefit-harm)** とする．
〈肯定〉かつ〈利害〉には，以下のようなものがある．

援助・救済・貢献 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他を助ける，救う，援助することを示す表現

恩賞・報恩・思いやり 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が恩を与えること，もしくは，受けた恩に報いること，他に配慮することを示す表現

改良・修繕・育成 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他をより良くすること，治すこと，教化し，育てることを示す表現

勝利・討伐 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が相手に勝利し負かす，もしくは，悪として討伐することを示す表現

統治・制御 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が混乱などを鎮める，もしくは，統治することを示す表現

利潤・善果 評価対象となる人間活動の主体・生産物等，また，その行為が，利益を与えることを示す表現

〈否定〉かつ〈利害〉には，以下のようなものがある．

威迫・圧政 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他を威圧，脅迫，圧政することを示す表現

義絶 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他との縁を切ることを示す表現

無慈悲・身勝手・冷酷 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他に無慈悲，身勝手，冷酷，むごいことを示す表現

敗北 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他に敗北したことを示す表現

害悪・暴徒・撹乱 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他に害をなす，混乱させる，乱暴をふるうことを示す表現

無駄 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が役に立たないことを示す表現

侵略・略奪 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他を侵略する，略奪をおこなうことを示す表現

邪魔・束縛・責任転嫁 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他の邪魔をする，束縛する，責任をなすりつけることを示す表現

欺瞞 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が他を騙すことを示す表現

反逆 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が主君などを裏切ることを示す表現

〈効用〉

〈非境界〉かつ〈作用〉の feature を**〈効用〉(effect)** とする．
〈肯定〉かつ〈効用〉には，以下のようなものがある．

恩恵・利益 評価対象となる個体・ユニットが他を潤す，他に利益を与えることを示す表現
効力・有用 評価対象となる個体・ユニットが他に効き目がある，役に立つ，便利であることを示す表現
無害 評価対象となる個体・ユニットが他に問題を起こさない，邪魔にならない，害を与えないことを示す表現
治癒・純化 評価対象となる個体・ユニットが他を治す，清らかにする，純化することを示す表現

〈否定〉かつ〈効用〉には，以下のようなものがある．

禍因 評価対象となる個体・ユニットが他に問題を起こす原因であることを示す表現
危険・危機 評価対象となる個体・ユニットが他を危なくすること，危険であることを示す表現
天災・災難・受難 評価対象となる個体・ユニットが災難を与えるものであることを示す表現
有害 評価対象となる個体・ユニットが他に害をなすことを示す表現
障害 評価対象となる個体・ユニットが他の邪魔となることを示す表現
損失 評価対象となる個体・ユニットが損失を与えることを示す表現
無益・無効 評価対象となる個体・ユニットが何の効力ももたない，役に立たないものであることを示す表現

4.3.10　システム [自立性]

【description】　〈自立〉を使用して評価を表す場合，システム [自立性] の feature より選択を行う．システム [自立性] における選択によって，話し手・書き手は，評価対象に内属する要素を限定して評価を示すのか，限定せずに評価を示すのか選択する．

【entry condition】

- feature 〈自立〉の選択

【feature】　システム［自立性］の feature は以下のものである．

〈内在〉 (intrinsic)　評価対象の特定の内属要素を指定して評価を示す表現を使って評価を表すもの
〈外在〉 (extrinsic)　評価対象の内属要素を指定せずに評価を示す表現を使って評価を表すもの

〈内在〉

【realisation statement】

RS23 評価表現: 評価対象の特定の内属要素を指定して評価を示す表現

【instance】　(23) では,「聡明」(語義: 頭がさえ，理解力があって（人格にすぐれ）かしこいこと.) という表現が用いられているが,「聡明」という表現を選択することで,「彼」の能力（特に知力）が評価の対象となる内属要素として指定される．ゆえに，RS23 を満たし〈内在〉とする．

(23) 彼は 聡明 で勉強好きで，大学に進み，教員になりたいと願っていた

（ロバート・コールズ著 福井美津子訳『シモーヌ・ヴェイユ入門』より）

〈内在〉の下位分類

〈性情〉

〈境界〉かつ〈内在〉の feature を**〈性情〉(disposition)** とする．
〈肯定〉かつ〈性情〉には，以下のようなものがある．

進歩・習熟・精通 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の成長・変化の過程がよりよくなったこと，もしくは，十分であることを示す表現

本物・真情 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が本物・真情であることを示す表現（「正しさ」とは異なる）

美麗・豪華 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の外見などが美しい，もしくは，豪華であることを示す表現

整合・整理・一貫 評価対象となる人間活動の主体・生産物等に内属する要素の間に整合性があり，整理されている，また，一貫性があることを示す表現

頑丈・健やか・活気 評価対象となる人間生活の主体・生産物等が丈夫であること，健康状態が良いこと，（若く）活発であることなどを示す表現

純潔・神聖 評価対象となる人間生活の主体・生産物等に内属する要素が汚染されていない，もしくは，神聖であることを示す表現

精巧 評価対象となる人間生活の主体・生産物等の構造が精密で，詳細・多重であること示す表現

上品・風雅・粋 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の品がしとやかで洗練されている，粋，風雅なことを示す表現

美質・温厚・誠実 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の性格が良い（まじめ，寛大，誠実，正直，やさしいなど）ことを示す表現

平定・円満 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の内属要素が安定しており，平和で穏やかであることを示す表現

能才 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の身体的・精神的能力が優れていることを示す表現

〈否定〉かつ〈性情〉には，以下のようなものがある．

贋作・虚勢 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が偽物である，虚勢をはっていることを示す表現（「正しさ」とは異なる）

粗悪・不備・素人 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の品質が悪い，欠陥・不備がある，十分な成長をしていないことを示す表現

下品・卑しさ・無風流 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の品が悪い，粋でない，風雅でない，洗練されていないことを示す表現

性悪・偏曲・小心 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の性格が悪い（性悪，偏屈，小心，臆病，不誠実など）ことを示す表現

騒乱・蕪雑 評価対象となる人間活動の主体・生産物等に内属する要素の間に不整合性があり，混乱している，また，一貫性がないことを示す表現

不器量 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の外見・構造などが美しくないことを示す表現

無能・無才 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の身体的・精神的能力が低いことを示す表現

劣弱・衰勢・破綻 評価対象となる人間生活の主体・生産物等が劣弱なこと，健康状態が悪いこと，構造的に衰退している，崩壊していることなどを示す表現

〈性質〉

〈非境界〉かつ〈内在〉の feature を**〈性質〉(quality)** とする．
〈肯定〉かつ〈性質〉には，以下のようなものがある．

精美・華やか・鮮明 評価対象となる個体・ユニットの外観的，もしくは構造的な美しさ・華やかさ・鮮明さを示す表現

完全・無欠 評価対象となる個体・ユニットに欠損がなく，完全であることを示す表現

豊富・壮大・十分 評価対象となる個体・ユニットに内属する要素が数量的に豊か・距離的に広く，十分であることを示す表現

調和・安定・整然 評価対象となる個体・ユニットに内属する要素が均一・安定・調和して存在することを示す表現

改善・成熟 評価対象となる個体・ユニットの成長・変化の過程がよりよくなったこと，もしくは，十分であることを示す表現

純粋 評価対象となる個体・ユニットに内属する要素が汚れておらず，澄んでいることを示す表現

良質・丈夫・活発 評価対象となる個体・ユニットの品質が高い，耐性にすぐれ丈夫，生き生きとして活発，新鮮であることを示す表現

〈否定〉かつ〈性質〉には，以下のようなものがある．

汚濁 評価対象となる個体・ユニットの外観，もしくは内部構造が汚れている，不純であることを示す表現

欠如・不完全・単調 評価対象となる個体・ユニットに欠損がある，未熟・不完全であること，また，構造が単純であることを示す表現

散乱・不調和・不安定 評価対象となる個体・ユニットに内属する要素が散乱しており・不安定・不調和な形で存在することを示す表現

衰残・崩壊・もろさ 評価対象となる個体・ユニットの耐性が弱い，弱体化している，崩壊していることを示す表現

歪み・不鮮明 評価対象となる個体・ユニットの内属要素が不鮮明である，ゆがんでいることを示す表現

〈外在〉

【realisation statement】

realisation statement なし.〈自立〉のうち,〈内在〉の realisation statement(RS23) を満たさないものが該当する

【instance】 (24) では,「重要」(語義: 価値・必要性などが大きいこと．大切.）という表現が用いられているが,「聡明」という表現と異なり,「重要」という表現は「水路」に属するどのような要素が大切かを評価するのでなく,「水路」という存在そのものの大切さを評価する．ゆえに，RS23 を満たさず,〈外在〉とする.〈内在〉が評価対象である個に内属する要素の評価を示すのに対して,〈外在〉は評価対象を個そのものとして評価する．

(24) だが深川では，その点でも水路の存在が <u>重要</u> な役割を演じた

（陣内秀信『世界の都市の物語』より）

〈外在〉の下位分類

〈世評〉

〈境界〉かつ〈外在〉の feature を**〈世評〉(reputation)** とする．
〈肯定〉かつ〈世評〉には，以下のようなものがある．

栄進 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が社会的によりよい地位や状態に至ることを示す表現

名誉・栄位・正統 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が立派な名声をもつこと，誉れであること，もしくは正しい血筋，系統であることを示す表現

崇高・冷厳 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が尊い，おごそかである，もしくは，堂々として落ち着いていることを示す表現

良好 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が良いこと，好ましいことを示す表現

公正・道理・規範 評価対象となる人間活動の主体・生産物等，また，それらの行為が正しいこと，規範・道徳に準ずるものであることを示す表現

親睦 評価対象となる人間活動の主体・生産物間の関係が良いことを示す表現

有望 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が将来すばらしい人物などになることが期待されることを示す表現

正解・適当・確実 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，また，それらの行いが正しいこと，適当であること，確実であることを示す表現

重任・要路・秘事 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が（秘密にするほど）重要，大切，価値があること，また，そのような地位にあることを示す表現

正義・勇猛 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の行いが勇敢，勇猛であること，また，正義に準ずるものであることを示す表現

果報 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が幸運に恵まれた状態にあることを示す表現

権威 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が大きな勢力をもっていることを示す表現

功績・偉業 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が成果をあげたこと，立派な行いなどをしたことを示す表現

真剣・懸命・丹念 評価対象となる人間活動の主体・生産物等がある行為等に真剣，懸命，もしくは丹念・丁寧に向かうこと，また辛いことをも耐えることを示す表現

順風・栄華 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が盛んな状態にあること，もしくは，行為等が順調であることを示す表現

名人（器）・達人・英雄 評価対象となる人間活動の主体・生産物等がすばらしく，立派な人物・生産物等であることを示す表現

巧妙・上手（じょうず） 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の行為が巧みであり，上手であることを示す表現

人気・普及・有名 評価対象となる人間活動の主体・生産物等に人気がある，好評である，普及している，有名であることを示す表現

〈否定〉かつ〈世評〉には，以下のようなものがある．

悪状況・薄運 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が悪い状況下にあることを示す表現

悶着・仇・疎外 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の仲が悪い，敵対する，仲間はずれにすることを示す表現

不適切・不確実・失敗・誤り 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の行動などが，不適切，不適切，確実性に欠ける，失敗である，誤りであることを示す表現

悪声・不名誉 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，悪い評判を得ている，不名誉であること示す表現

悪態・乱暴・傲慢 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の態度が悪い（乱暴，傲慢，なまけるなど）ことを示す表現

嘲り・罵り 評価対象となる人間活動の主体・生産物等を嘲って言う表現

失墜・左降 評価対象となる人間活動の主体・生産物等の地位や社会的状態が落ちること，落ちぶれることを示す表現

駄目・駄作・くだらなさ 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が駄目である，くだらないものであることを示す表現

苦手・下手（へた） 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が特定の行為などを苦手にしている，下手であることを示す表現

不正・不当・非道 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が正義，公平さ，道徳，規範などに反していることを示す表現

不手際・手抜かり・不注意 評価対象となる人間活動の主体・生産物等が，軽率，手抜きをしている，準備がなっていない，注意が足りないことを示す表現

〈価値〉

〈非境界〉かつ〈外在〉の feature を**〈価値〉(valuation)** とする．

〈肯定〉かつ〈価値〉には，以下のようなものがある．

吉兆・幸運・幸（さち） 評価対象となる個体・ユニットが幸運を知らせるものである，もしくは，幸運にめぐまれた状態にあることを示す表現

適当・適合・適期 評価対象となる個体・ユニットが他のものによくマッチすること，もしくは，最適な状態にあることを示す表現

有名 評価対象となる個体・ユニットが名高く，世間によく知られていることを示す表現

重要・大切・根底 評価対象となる個体・ユニットが重要・大切であること，必要であること，主要な部分であることを示す表現

立派・逸物 評価対象となる個体・ユニットが良い・すばらしい・立派であることを示す表現

〈否定〉かつ〈価値〉には，以下のようなものがある．

緊迫・深刻・停滞 評価対象となる個体・ユニットが緊迫，深刻な状態にある，もしくは，動きがなく，停滞してしまっていることを示す表現

細事・余計・不要 評価対象となる個体・ユニットがくだらないことである，余計なものである，不要のものであることを示す表現

不運・凶 評価対象となる個体・ユニットが不運を知らせるものである，もしくは，不運にさいなまれる状態にあることを示す表現

不整合・不規則・不都合 評価対象となる個体・ユニットが他のものによくマッチしないこと，もしくは，悪い状態にあることを示す表現

不評・悪い 評価対象となる個体・ユニットの評判が悪い，悪いものであることを示す表現

4.4 まとめ

本章では，JAppraisal 辞書において〈態度評価表現〉がどのように分類されているかを示した．今までの評価に関する分析において，評価表現はその評価極性に関する情報のみ着目されることが多かったが，JAppraisal 辞書の構築によって，評価分析に評価基準という新たな観点を提供できるのではないかと考える．また，JAppraisal 辞書に含まれる表現（〈内評価〉に該当するもの）は，感情表現を多く含むため，感情の種類の細分化の手段としても利用できるだろう．また，system network に則り分類体系を記述したことで，評価情報を集約する際，集約の程度を spID の桁を用いて調整することができる．さらに，realisation statement に用いた SCE の種類は，評価情報のアノテーションの framework としても活用できる．JAppraisal 辞書に付与された情報を研究・教育目的に応じて活用して頂ければ幸いである．次章では，補足事項を挙げる．

第5章　補足事項

5.1　JAppraisal 辞書の拡張について

5.1.1　評価表現と表現の直接性・間接性について

評価が，間接的な表現（比喩を用いたものなど）によって表されることも多い．特に，人間活動の主体に対する評価は，間接的な表現が用いられる傾向が強い [33]．アプレイザル理論には評価表現の直接性・間接性を分類する枠組みも設けられているが，現行の JAppraisal 辞書には，国語辞典から評価表現を特定したこともあり，一部の慣用句を除き間接性の高い表現はほとんど含まれていない．間接的な表現についても分析を行うためには，辞書に追加する必要がある．

5.1.2　評価表現と表現の言語単位について

JAppraisal 辞書に掲載されている表現のほとんどは，語単位のものである．しかしながら，評価表現は句，場合によっては，節単位として表されることもある．句や節単位として表される評価表現に，JAppraisal 辞書は現状では対応していないため，そのような単位の分析が必要な場合は辞書に追加する必要がある．なお，本稿で示した評価表現の分類体系は，句単位の分類にも利用できると思われる．

5.2　他の言語資源との併用

5.2.1　『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』との併用について

JAppraisal 辞書に掲載されている評価表現の語義は,『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』から獲得することが可能である.『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』には，各語義に「senseid」が付与されており，この ID が JAppraisal 辞書に掲載されている「senseid」と対応している．言語資源協会から無償で公開されている「GDA コーパスブラウザ」を用いると，簡単に語義を閲覧することができる．詳細に関しては,『岩波国語辞典第五版タグ付きコーパス 2004』の readme を参照されたい．

5.2.2　『新聞記事 GDA コーパス 2004』との併用について

『新聞記事 GDA コーパス 2004』には，岩波国語辞典第五版に基づく語義が付与されている．当該のデータの「sem=iwa:」の後に記述される岩波国語辞典第五版の語義の ID と，JAppraisal 辞書に掲載されている「senseid」とが対応している．詳細に関しては,『新聞記事 GDA コーパス 2004』の readme を参照されたい．

5.3　その他

5.3.1　出典情報の明記について

本データを使用して研究発表，あるいは，成果発表を行う場合，以下の出典情報を明記してください．

日本語の場合　佐野大樹　(2011)　『日本語アプレイザル評価表現辞書—態度評価編— JAppraisal 辞書 ver1.0』 言語資源協会発行

英語の場合 Sano, M. (2010) *Japanese Dictionary of Appraisal —attitude— (JAppraisal Dictionary ver1.0)*, published by Gengo Shigen Kyokai

5.3.2　日本語 WordNet のライセンスについて

本データで使用しているのは，日本語 WordNet の wordid のみであるが，併用する場合は，以下のライセンスに基づき使用してください．ライセンスは http://nlpwww.nict.go.jp/wn-ja/にて確認できます．

> Japanese WordNet Copyright 2009, 2010 by the National Institute of Information and Communications Technology (NICT). All rights reserved.
>
> THIS SOFTWARE AND DATABASE IS PROVIDED “AS IS” AND NICT MAKES NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED. BY WAY OF EXAMPLE, BUT NOT LIMITATION, NICT MAKES NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE OR THAT THE USE OF THE LICENSED SOFTWARE, DATABASE OR DOCUMENTATION WILL NOT INFRINGE ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR OTHER RIGHTS.

5.3.3　連絡先

sysjappraisal@google.com にてデータに関する質問などを受けつけております．場合によっては，回答できない内容もありますので，あらかじめご了承ください．

関連図書

[1] 荒正子 (1989) 形容詞の意味的なタイプ.『ことばの科学』言語研究会（編）. むぎ書房. pp.147–162.

[2] Biber, D. and Finegan, E. (1989) 'Styles of Stance in English: Lexical and Grammatical Marking of Evidentiality and Affect'. Text Vol.9, No.1. (Special Issue on the Pragmatics of Affect) pp.93-124.

[3] Bond, F, Hitoshi Isahara, Kiyotaka Uchimoto, Takayuki Kuribayashi and Kyoko Kanzaki (2009) Extending the Japanese WordNet. In 15th Annual Meeting of The Association for Natural Language Processing, Tottori, C1-4.

[4] Caffarel, A., Martin, J.R., Matthiessen, C.M.I.M. (2004) 'Introduction: Systemic Functional Typology', in Caffarel, A., Martin, J.R., Matthiessen, C.M.I.M. (eds.) Language Typology : A Functional Perspective. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins. pp.1-76.

[5] Chafe, W. and J. Nichols (1986) Evidentiality: The Linguistic Coding of Epistemology. Norwood, N.J.: Ablex.

[6] Halliday, M. A. K. (1978) Language as Social Semiotic: The Social Interpretation of Language and Meaning, Arnold, London.

[7] Halliday, M.A.K. and C.M.I.M. Matthiessen (2004) An Introduction to Functional Grammar. (3rd ed.) Arnold: London.

[8] 早川知江，佐野大樹，水澤祐美子，伊藤紀子 (2011) 機能文法における節境界の問題と認定基準の提案 『機能言語学研究』Vol.6, pp.17-58.

[9] 東山昌彦, 乾健太郎, 松本裕治 (2008) 述語の選択選好性に着目した名詞評価極性の獲得. 『言語処理学会第 14 回年次大会論文集』 pp.584-587.

[10] 樋口文彦 (1989) 評価的な文.『ことばの科学』言語研究会（編）むぎ書房. pp.181-192.

[11] 乾孝司, 奥村学 (2006) テキスト評価分析の技術とその応用.『情報処理』 Vol.48, pp.995-1000.

[12] 金水敏 (2010) 日本語の将来を考える視点—「言語資源論」の観点から—. 『日本学術会議主催公開講演会「日本語の将来」予稿集』言語系学会連合 pp.2–7.

[13] 小林のぞみ，乾健太郎，松本裕治，立石健二，福島俊一 (2005) 意見抽出のための評価表現の収集.『自然言語処理』Vol.12, No.2, pp.203-222.

[14] 国立国語研究所コーパス開発センター (2011) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所コーパス開発センター.

[15] Martin, J. R. (2000) 'Beyond Exchange: Appraisal Systems in English', Evaluation in Text, eds. S. Hunston and G Thompson, Oxford University Press, Oxford, pp.142-75.

[16] Martin, J. R. (2003) 'Introduction'. Text: Special Issue - Negotiating Heteroglossia: Social Perspectives on Evaluation. Berlin & New York: Mouton de Gruyter. Vol.15, No.23. pp. 171–181.

[17] Martin, J. R. and P. R. R. White (2005) The Language of Evaluation : Appraisal in English, Palgrave Macmillan, New York.

[18] 丸山岳彦，柏岡秀紀，熊野正，田中英輝 (2004) 日本語節境界検出プログラム CBAP の開発と評価 『自然言語処理』Vol.11, No.3. pp.39–68.

[19] Matthiessen, C. (1995) Lexicogrammatical Cartography: English Systems. International Language Sciences Publishers: Tokyo.

[20] 中村明 (1979)『感情表現辞典』 六興出版.

[21] 仁田義雄, 益岡 隆志 (1989)『日本語のモダリティ 』くろしお出版.

[22] 仁田義雄, 森山卓郎, 工藤浩 (2000)『日本語の文法 (3) モダリティ』岩波書店.

[23] Ochs, E. and Schiefflen,B. (1989) 'Language Has a Heart'. Text Vol.9, No.1. (Special Issue on the Pragmatics of Affect) pp.7-25.

[24] 奥村学，白井清昭，古宮嘉那子，横野光 (2011) SemEval–2011 日本語語義曖昧性解消タスク報告.『特定領域研究「日本語コーパス」平成２２年度公開ワークショップ（研究成果報告会）予稿集』pp.503–506.

[25] 大塚裕子, 乾孝司, 奥村学 (2007) 『意見分析エンジン—計算言語学と社会学の接点—』コロナ社.

[26] Painter, C. (2003) 'Developing Attitude: An Ontogenetic Perspective on Appraisal', Text, Vol.23, No.2. pp.183-209.

[27] Ravelli, L. J. and R. A. Ellis (2004) eds. Analysing Academic Writing: Contextualized Frameworks, Continuum, London.

[28] Sano, M. (2006) A Linguistic Exploration of Persuasion in Written Japanese Discourse: A Systemic Functional Interpretation. University of Wollongong: Wollongong. http://ro.uow.edu.au/theses/21/

[29] Sano, M. (2008) 'The Rhetoric of Editorials: A Japanese Case Study", Communicating Conflict: Multilingual Case Studies of the News Media, eds. E.A. Thomson and P.R.R. White, Continuum, London, pp.97-118.

[30] 佐野大樹 (2009) 「話し言葉らしさ・書き言葉らしさ」の計測—語彙密度の日本語への適用性の検証— 『機能言語学研究』Vol.5, pp.89–102.

[31] 佐野大樹 (2010) ブログにおける評価情報の分類と体系化: アプレイザル理論を用いて『信学技報』 NLC2009-39 pp.37-42.

[32] 佐野大樹 (2010) 選択体系機能言語理論を基底とする特定目的のための作文指導方法について—修辞ユニットの概念から見たテクストの専門性—.『専門日本語教育研究』12, pp.19-26.

[33] 佐野大樹 (2010) ブログにおける評価表現の使い分けの特徴—アプレイザル理論からみた評価基準と表現の直接性/間接性の関係—. 『計量国語学』Vol.27, No.7. pp.249–269.

[34] 佐野大樹 (2011) 日本語における評価表現の分類体系〜アプレイザル理論をベースに〜『信学技報』NLC2010-33, pp.19–24.

[35] 佐野大樹，丸山岳彦, 山崎誠ほか (2009) 『語彙密度を利用した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』テクスト分類の試み』特定領域研究「日本語コーパス」平成２０年度研究成果報告書．文部科学省科学研究費特定領域研究報告書.

[36] 佐野大樹, 丸山岳彦 (2010) 評価表現に基づくブログ分類の試み—アプレイザル理論を用いて—『言語処理学会第 16 回年次大会 予稿集』東京大学. pp.174-177.

[37] 関洋平, 神門典子, 稲垣陽一, 栗山和子 (2009) 平成 21 年度研究進捗状況報告: 意見情報班－多様な文書ジャンルを対象とした意見分析コーパスの作成に関する研究, 『特定領域研究「日本語コーパス」平成 21 年度全体会議予稿集』 pp.45-52.

[38] Shaver, P., Schwartz, J. and O'Connor, C. (1987) Emotion Knowledge: Further Exploration of a Prototype Approach. Journal of Personality and Social Psychology.

[39] 高梨信乃 (2010)『評価のモダリティ：現代日本語における記述的研究』くろしお出版.

[40] Thomson, E.A. and White, P.R.R. (2008) Communicating Conflict: Multilingual Case Studies of the News Media, Continuum, London.

[41] Thomson, E. A., N. Fukui and P.R.R. White (2008) 'Evaluating 'Reporter' Voice in Two Japanese Front-Page Lead Stories', Communicating Conflict: Multilingual Case Studies of the News Media, eds. E.A. Thomson and P.R.R. White, Continuum, London, pp.65-95.

[42] 宇佐美洋 (2011) 教室外の世界でおこなわれている「評価」その多様性を探る意義, 『2011 年度日本語教育学春期大会予稿集』pp.79–81.

[43] Whitelaw, C., N. Garg and S. Argamon (2005) 'Using Appraisal Groups for Sentiment Analysis', Proceedings of the 14th ACM International Conference on Information and Knowledge Management, ACM, Bremen, pp.625-631.

[44] White, P. R. R. and M. Sano (2006) 'Dialogistic Positions and Anticipated Audiences - a Framework for Stylistic Comparisons', Pragmatic Markers in Contrast, eds. K. Aijmer and A-M. Simon-Vandenbergen, Elisver, pp.189-214.

[45] 山口昌男 (2000) 『文化と両義性』岩波書店.

大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所　コーパス開発センター
『日本語アプレイザル評価表現辞書（JAppraisal 辞書）〜態度評価編〜』
Japanese Dictionary of Appraisal (attitude): JAppraisal Dictionary

2012 年 3 月　version1.2　公開
2011 年 12 月　version1.1　公開
2011 年 9 月　version1.0　公開

制作者　大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所コーパス開発センター
〒 190-8561 東京都立川市緑町１０－２
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所コーパス開発センター
電話 042-540-4300　（代表）

発行・公開　特定非営利活動法人 言語資源協会（GSK ）
〒 171-0014 東京都豊島区池袋２－５５－２　鈴木ビル３ F
株式会社日本システムアプリケーション内　GSK 事務局
E-mail：info@gsk.or.jp URL：http://www.gsk.or.jp/

編者・筆者　佐野大樹
©MOTOKI SANO 2011